

竹の台
まちづくりアンケート
2024年

令和6年1月
竹の台地域委員会
広報部

目次

(1) アンケート概要	1
(2) アンケートに答えていただいた方の基本情報	
①男女構成比	2
②年代	3
③丁別	4
(3) 竹の台に住んでみて	6
(4) 子育てについて	17
(5) さまざまな人が暮らすまち	19
(6) 安全・防災	20
(7) 地域の活動・拠点・つながり	26
(8) 学校とのつながりについて	34
(9) 住民自治組織について	38
(10) その他	43
まとめ	44

(1) アンケート概要

①アンケートの目的

竹の台地域では、2014年に、2年に及ぶ住民ワークショップを経て、まちづくりの目標である「竹の台5か年計画」を策定した。その進捗状況を確認し、「第2次竹の台5か年計画」に反映させるため、2018年「竹の台まちづくりアンケート」を実施し、2019年「第2次5か年計画」を策定した。

今回は「第2次5か年計画」の進捗状況を確認し、「第3次5か年計画」に反映させるため、住民アンケートを実施した。(2023年5月中旬～6月)

②アンケート対象

竹の台地域に住む18歳以上の全住民

③アンケート方法

- ・自治会、戸建て管理組合に世帯数を配布し、自治会、戸建て管理組合を通じて回収する。
- ・マンション管理組合については、竹の台総合新聞95号にアンケート用紙を折込み、管理棟に設置した回収箱に投函する。
- ・上記の方法によらず、ネットで回答する。
- ・竹の台地域福祉センターとたけのパークの回収箱に投函する。

④回収期間

5月中旬から6月25日(日)

⑤回収状況

1274(そのうちネット回答359)

⑥アンケート結果の表示方法

比率は、小数点第1位を四捨五入し、整数の百分率(%)で表しています。このため、合計が100%にならない場合もある。

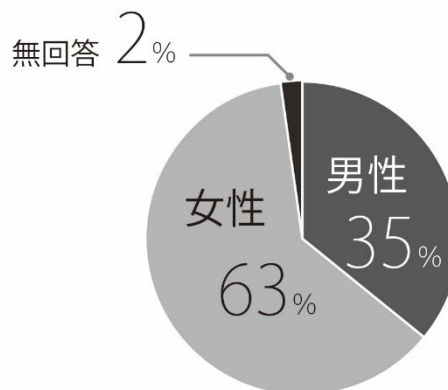
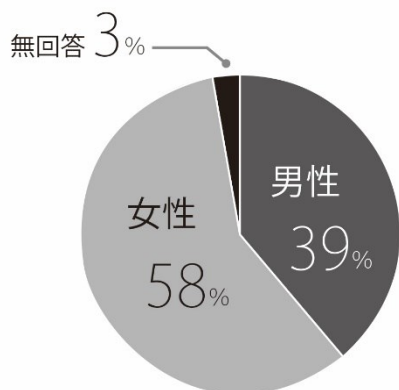
2019年と今回のアンケートでは、回収方法が異なっている(2019年では世帯ごと、今回は個人ごと)ため、2019年実施したアンケート結果とは、厳密な意味では比較できないものであるが、傾向としては、十分参考にできると考え比較した。

(2) アンケートに答えていただいた方の基本情報

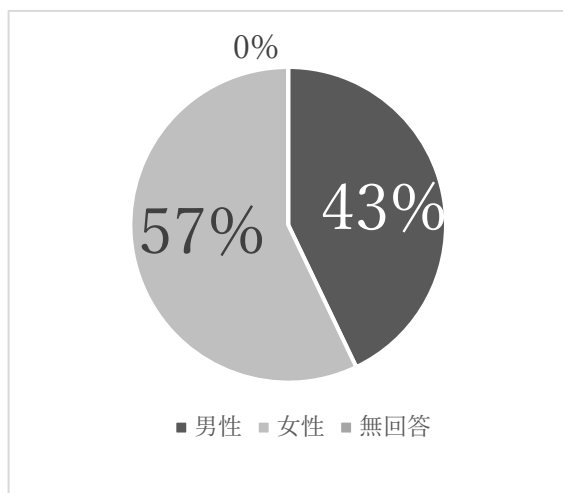
①男女構成比

回答数 1274 (ネット回答 359 含む)

5 年前 (回答数 1308)



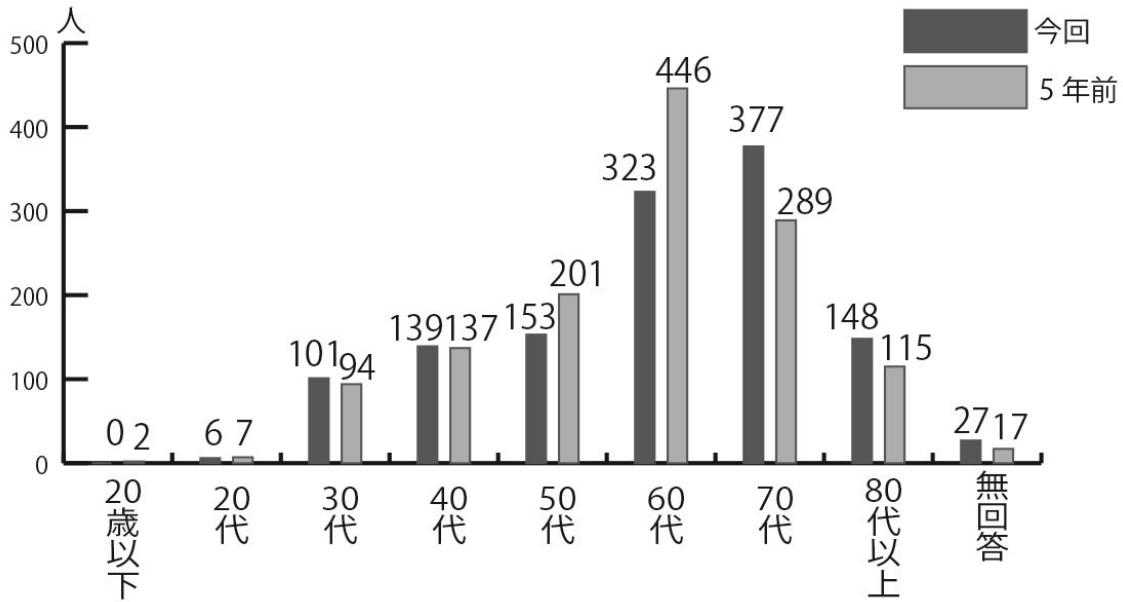
ネット回答 (回答数 359/1274)



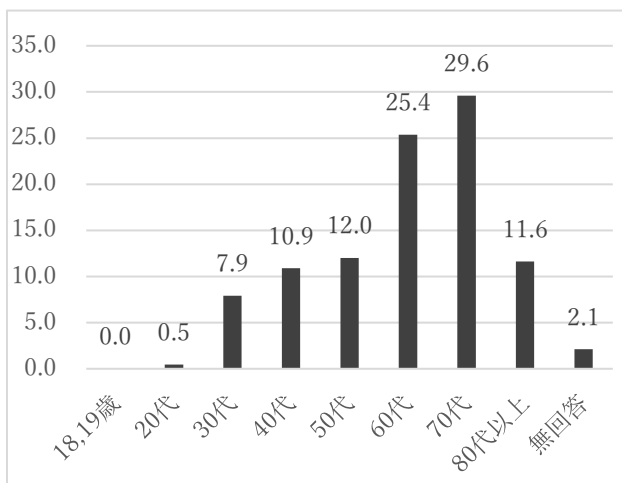
5 年前に比べ、男性の回答数が増えた。ネット回答における男女差はほとんどなかった

②年代

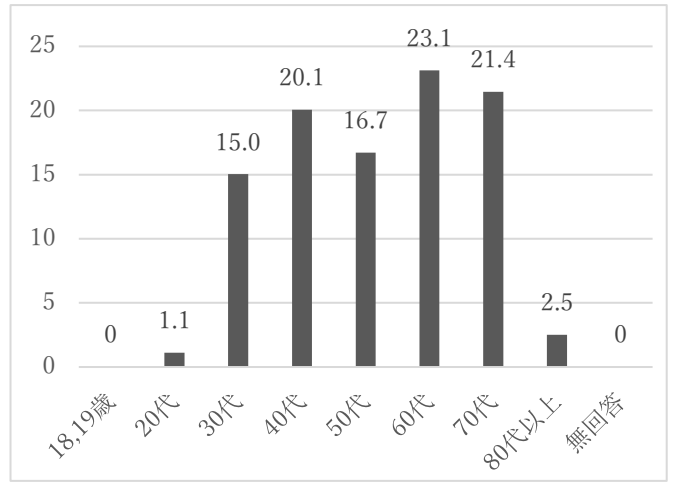
回答者の年代別回答数



今回の回答者の年代別の割合 %



ネット回答した方の年代別の割合 %



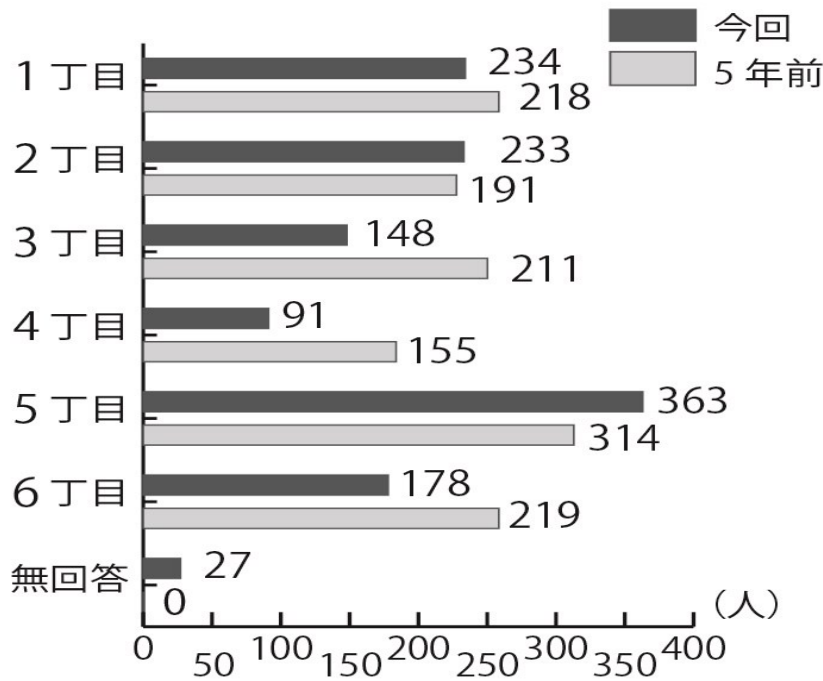
5年前に比べ、60代が減って、70代が増えた。他の年代では大きな変化は見られなかった。

30代では、全体の回答者における割合が7.9%だったが、ネット回答者の割合が15%、同様に40代では10.9%から20.1%に大きく増えた。

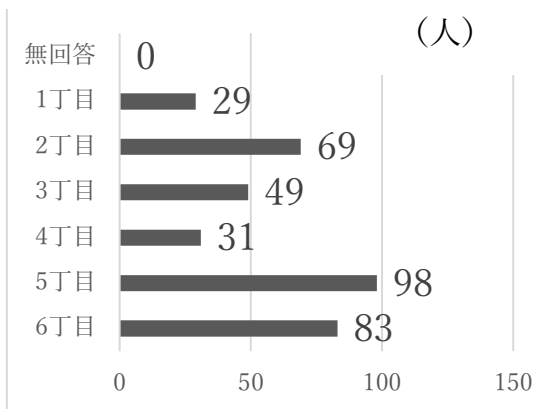
また、60代70代では、ネット回答者の割合がそれほど減らなかった。簡単なアンケートなら高齢者でもネットで回答してくれることがわかった。

③丁別

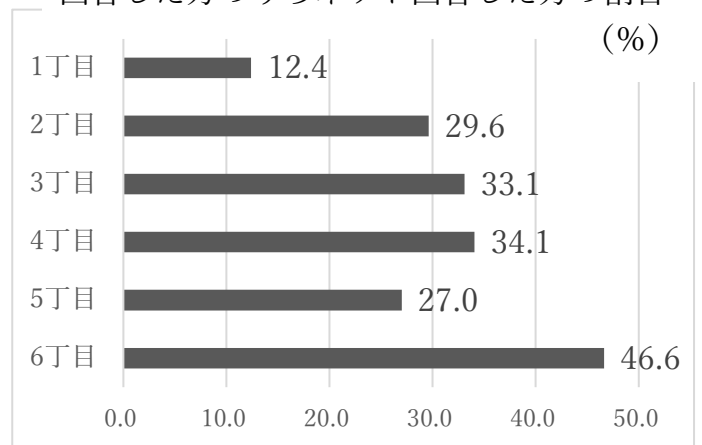
回答数（1274）の丁目別グラフ



ネット回答（359）の丁目別グラフ



回答した方のうちネット回答した方の割合 (%)

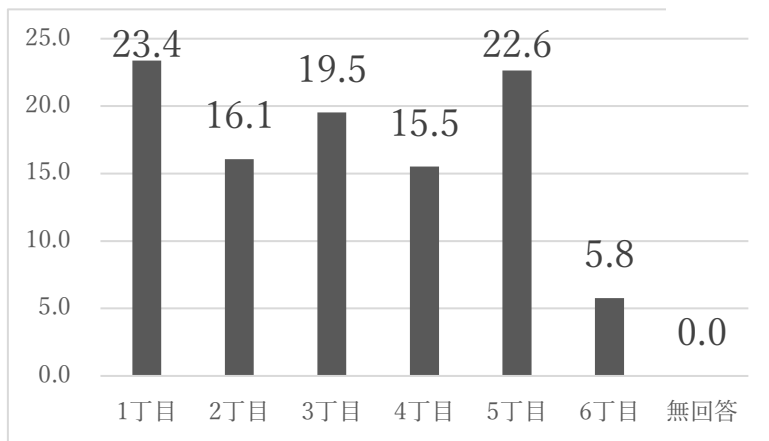


5年前に比べ、3丁目、4丁目、6丁目の回答数が減った。
 また、回答した方のうち、ネットで回答した方の割合が大きかったのは、6丁目（マンション）だった。

各丁目における人口に対する回答率を調べてみた

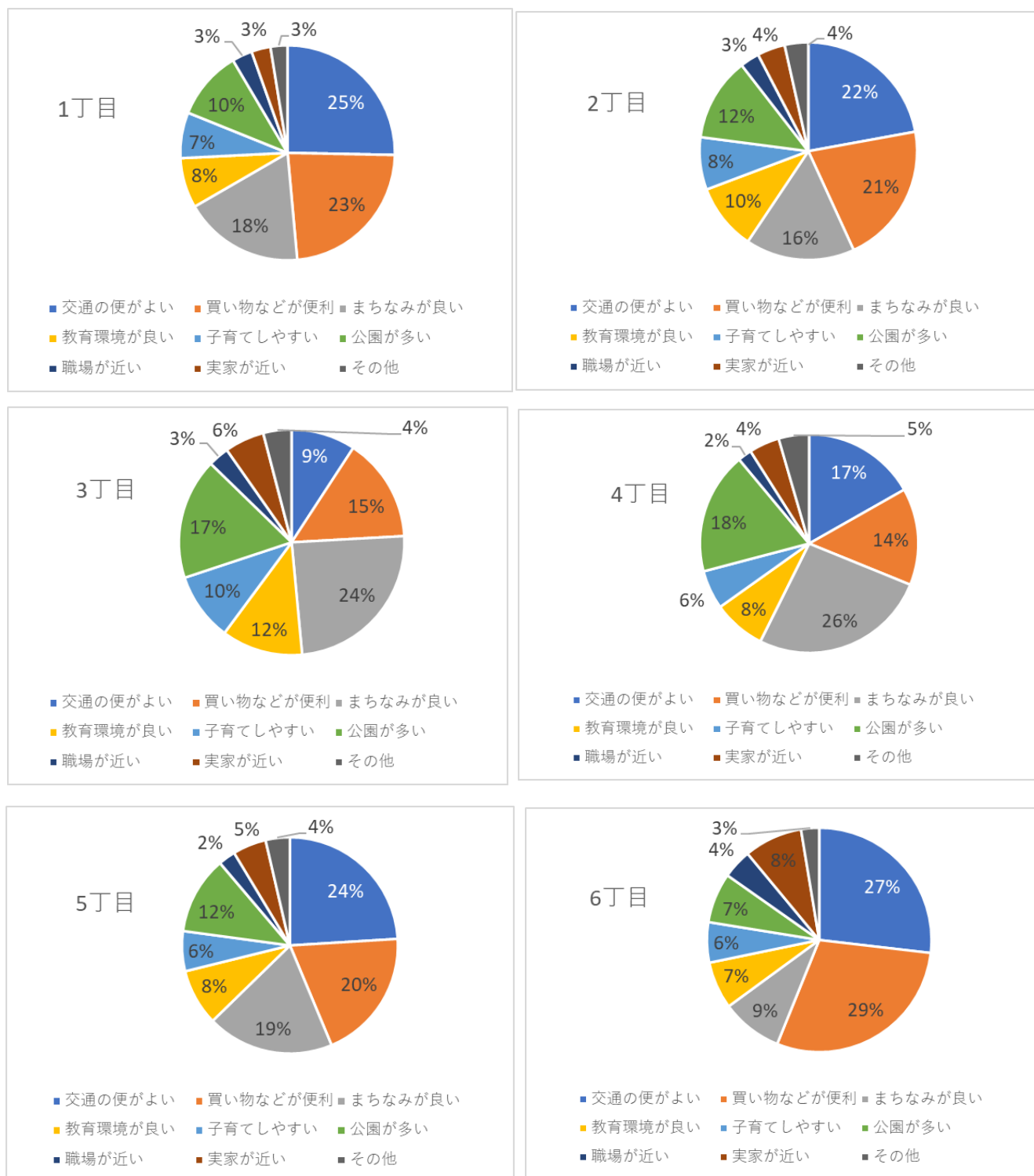
アンケート実施時期（2023年6月）の各丁目の18歳以上人口（神戸市住民基本台帳から）は、1丁目903人、2丁目1190人、3丁目677人、4丁目532人、5丁目1430人、6丁目2535人

人口に対する丁目別回答数の割合（%）



1丁目、5丁目で、回答した方の割合が多かった。
6丁目（マンション）は、回答した方の割合が他の丁目に比べかなり低かった。

設問4に対する丁目による違い



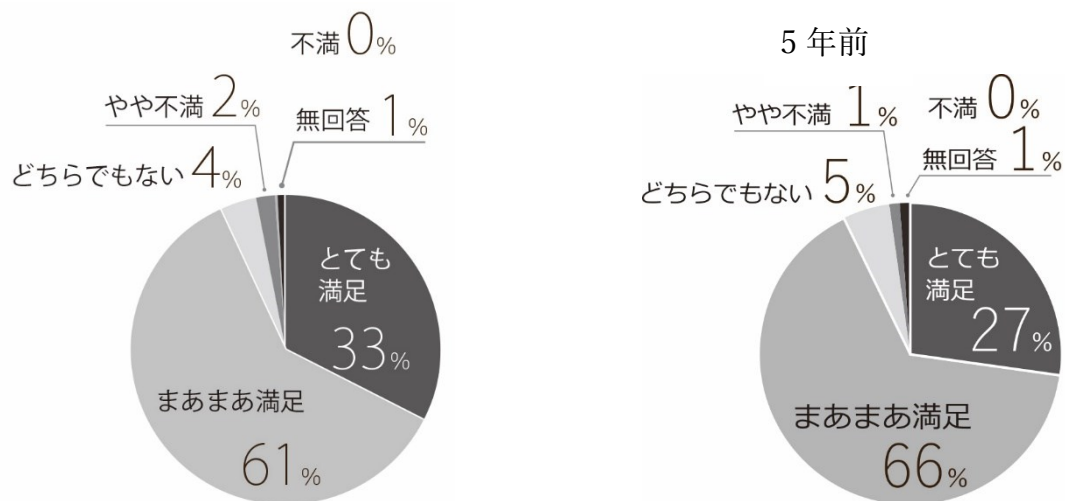
西神中央駅に近い1丁目2丁目5丁目6丁目では、「交通の便がよい」の割合が大きかった。また、6丁目（マンション）では、「買い物などが便利」を挙げている方が多かった。

3丁目4丁目では、「まちなみがよい」の割合が多かった。

また、6丁目で「実家が近い」の割合が多かった。

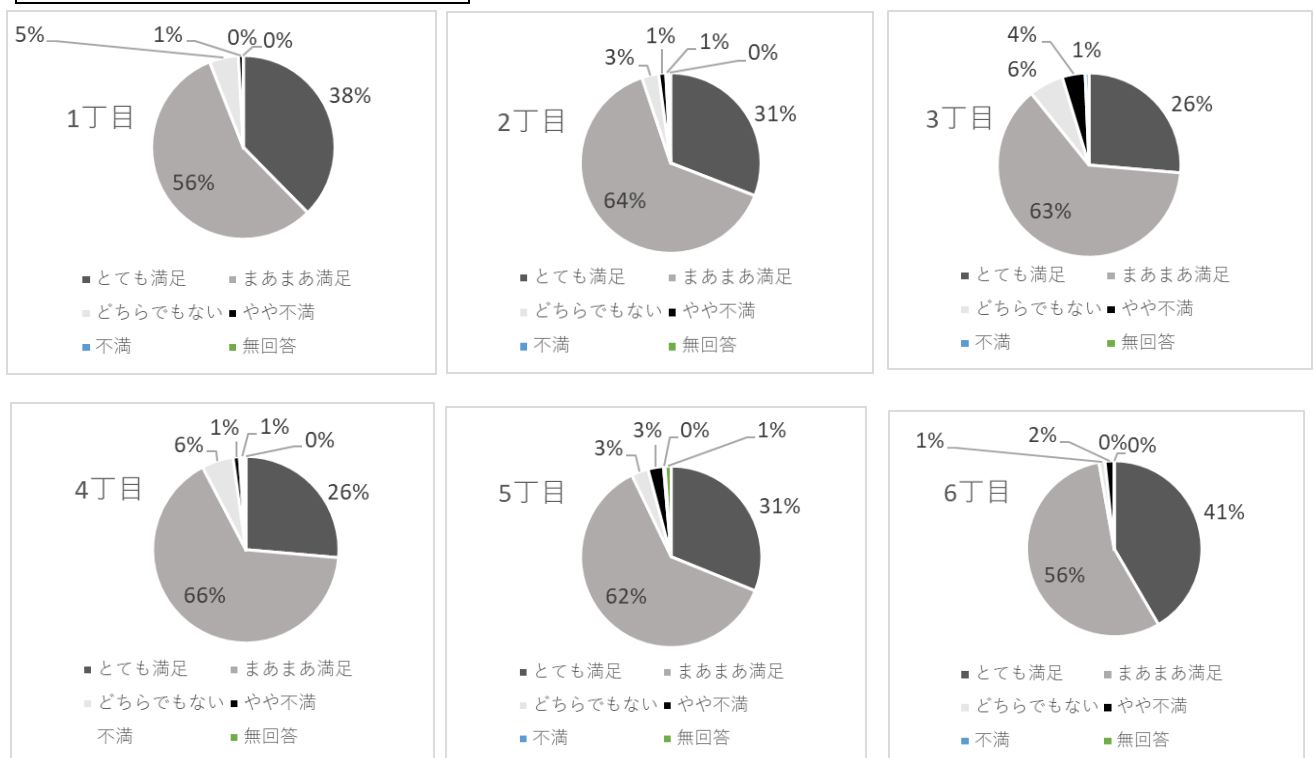
設問5 住んでみてどうでしたか？

- 1、とても満足 2、まあまあ満足 3、どちらでもない 4、やや不満
5、不満



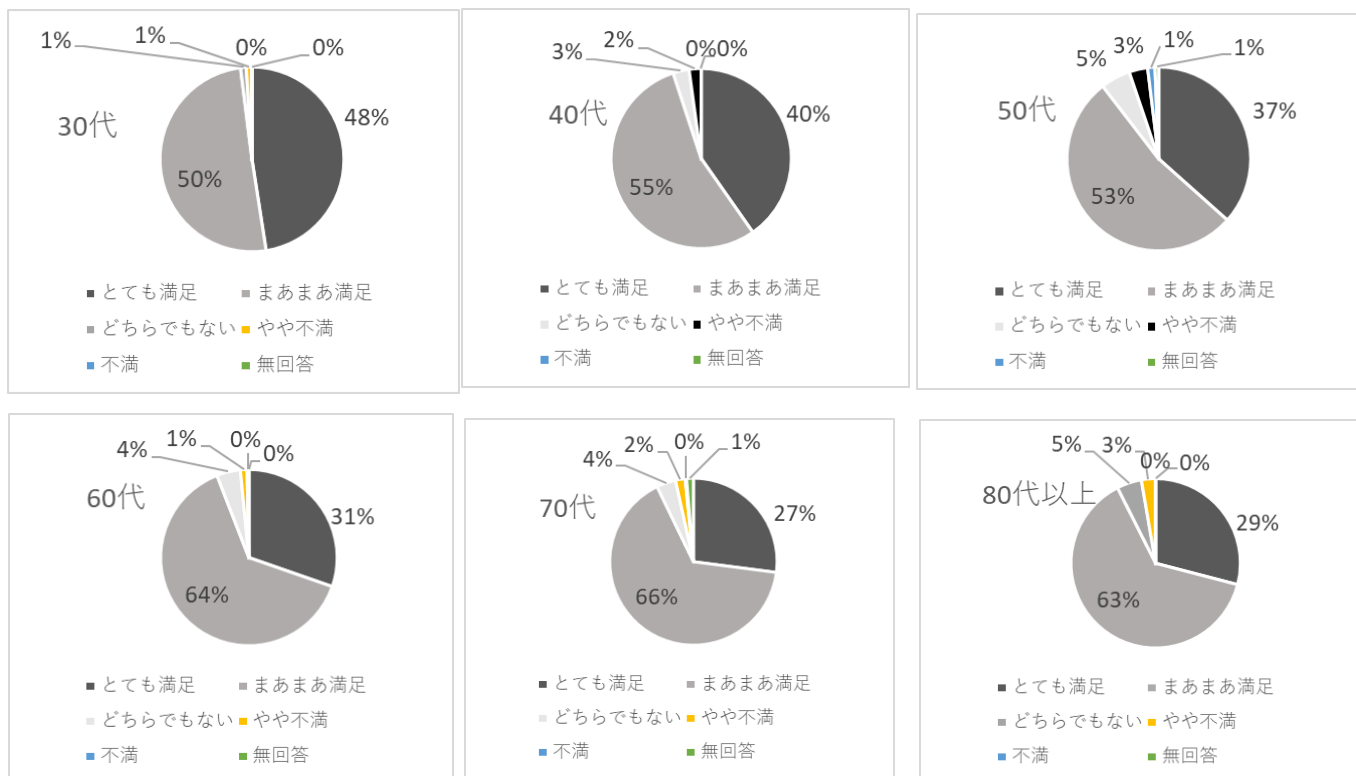
「とても満足」、「まあまあ満足」を併せた割合は、今回 94%、5年前 93%とほとんど変化はないが、「とても満足」と答えた方の割合が 6%増加した。

設問5に対する丁目による違い



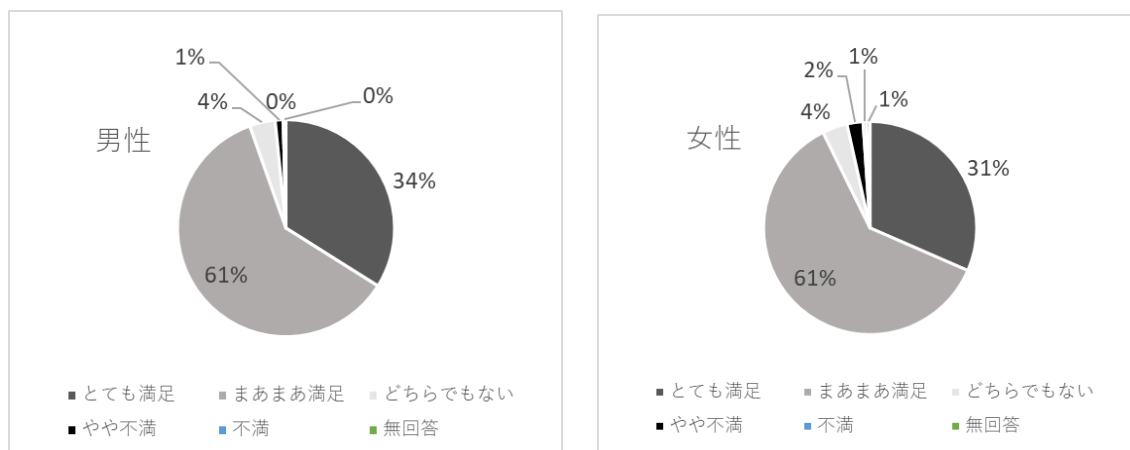
「とても満足」、「まあまあ満足」を併せた割合は、6丁目マンションが最も高かった。その他の丁目では大きな差はなかった。5年前のアンケートでも同様の結果だった。

設問 5 に対する年代による違い



若い年代の方が 60 代以上の高齢者の方より満足度が高かった。

設問 5 に対する性別による違い



満足度に男女差はなかった

設問6 よろしければ、5 でその回答を選んだ理由をご記入ください。

全部で566件の回答があった。

① とても満足、まあまあ満足を挙げた方の理由（523件）

住環境の良さ、自然に恵まれている、安心、人とのつながりが良好であることを挙げる方が多かった。

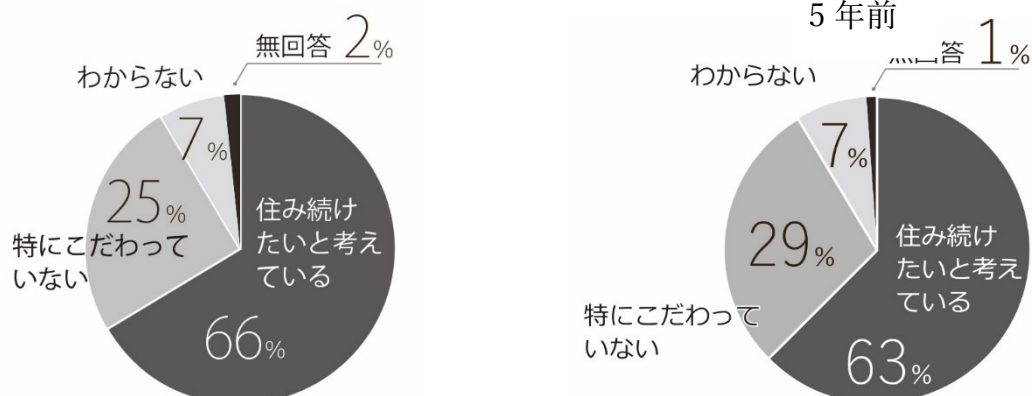
- ・住環境がよい（静かできれい）
- ・交通の便がよく住むための必要環境がそろっている
- ・保育園や幼稚園、小学校、中学校、スーパー、郵便局、銀行など、生活に必要な施設などが近い
- ・自然環境がよい 緑が多いし小鳥のなき声なども朝起きると聞こえるのがよいです
- ・公園の緑が多く爽やかにウォーキングできる
- ・静かで、近くに大きな公園もあり、駅もバス停も徒歩圏内にあるから
- ・学校が近く、通学も安心。実家が近いのでサポートしてもらえる
- ・安心して住める
- ・治安が良い
- ・安全で静かで、とても生活しやすい
- ・道路も整備され、歩道も広く、子供も安心して歩かせられます。広々とした空間は、気持ちも豊かになります。
- ・活発なコミュニケーションがある
- ・自分の実家も竹の台で住み慣れているので
- ・ご近所の方々も穏やかな方が多く、子育てにおいてもたくさん助けていただいた
- ・近所付き合いが上手く行っている

② その他、不満に思う点

- ・以前より街灯が明るくなかったが、まだ足りないように思える
- ・バス停がもう少し近いとなお良い
- ・街の歴史が浅い分街の中に面白味が無い
- ・マンション住まいでは、駐車場が足りず近くに月極も無いので遠くの臨時駐車場に停めないといけない
- ・環境は良いが、高齢になり車の免許も返上して店が遠い
- ・そごうのほうがより便利だったようにも思います
- ・もう少し色んな店が欲しい
- ・駅前ロータリーが小さすぎる
- ・ホームセンターがあればもっと良い
- ・百貨店のそごうがあるのが魅力で、閉店したときとてもショックでした

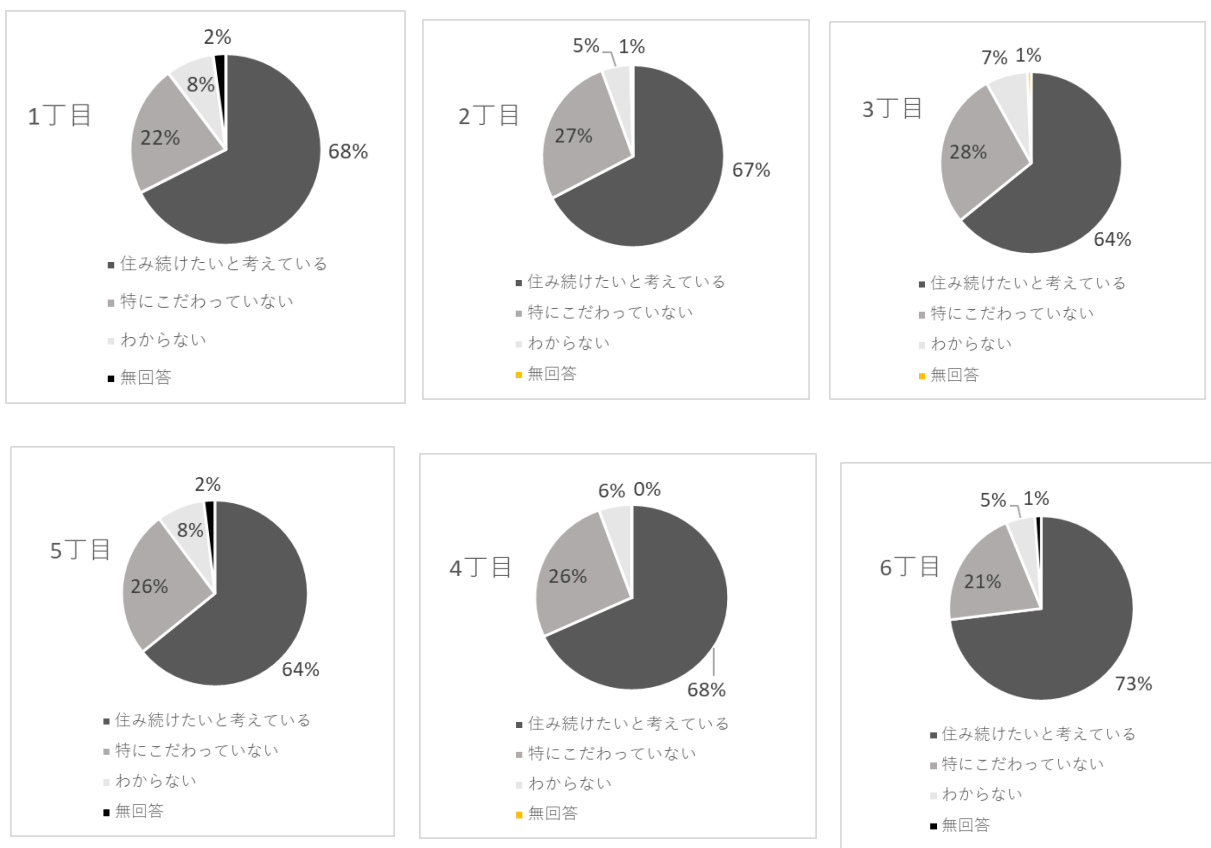
設問7 このままずっと竹の台に住み続けたいと考えていますか？

- 1、住み続けたいと考えている 2、特にこだわっていない 3、わからない



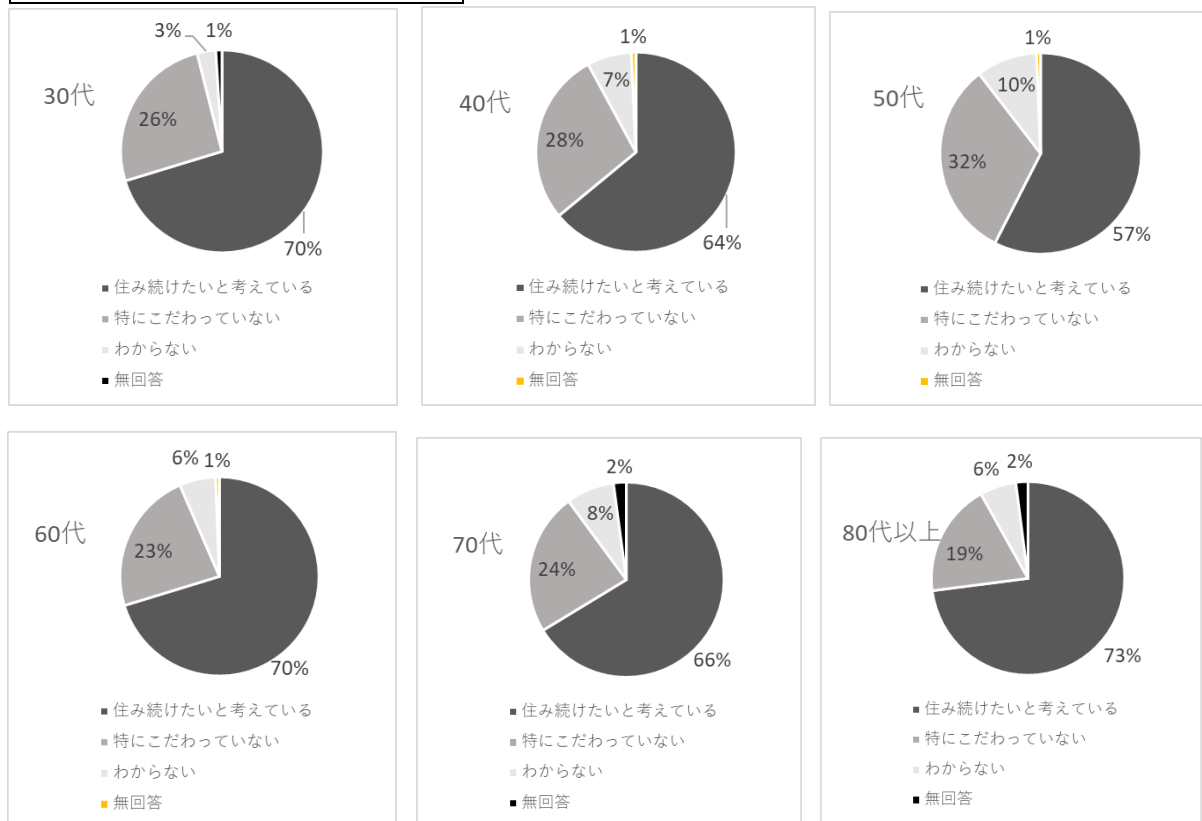
「住み続けたいと考えている」の割合が5年前に比べ3%増えた。

設問7に対する丁目による違い



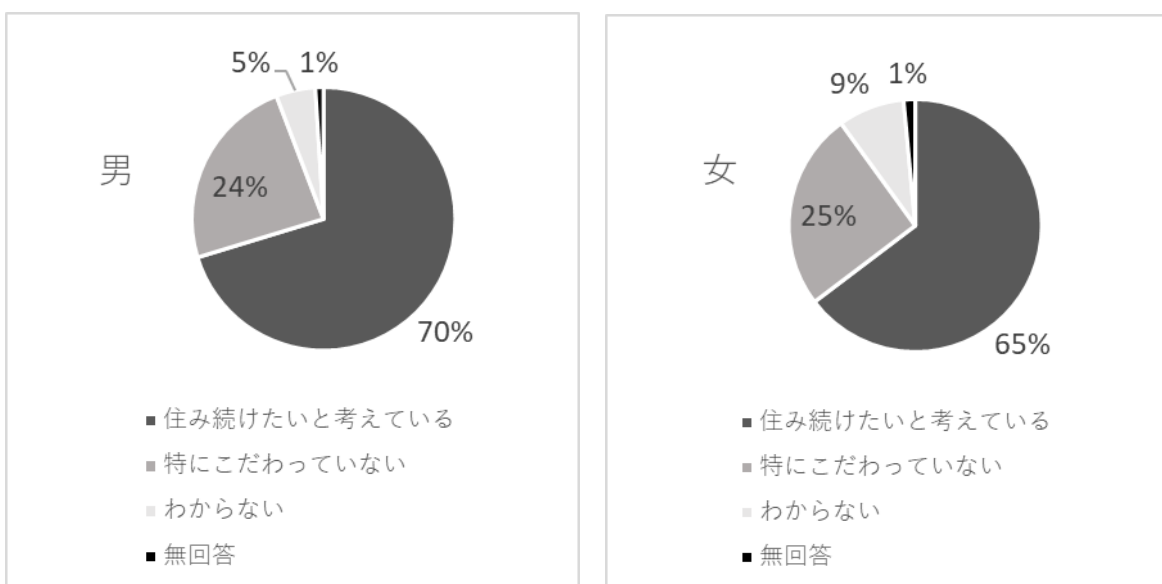
6丁目（マンション）で「住み続けたいと考えている」割合がやや多かった。

設問 7 に対する年代による違い



50代で「住み続けたいと考えている」が他の年代より少なく、「特にこだわっていない」が多かった。

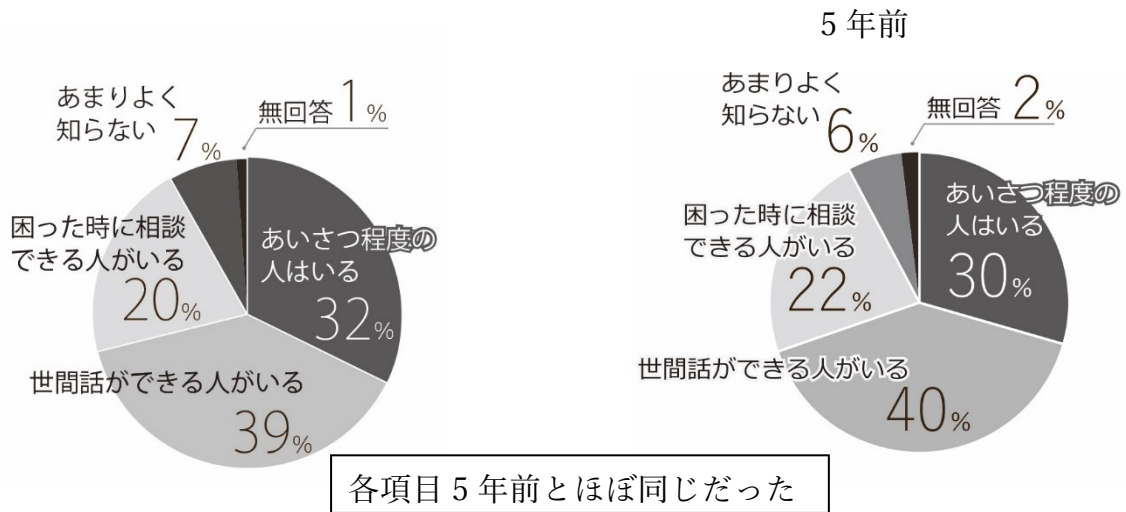
設問 7 に対する性別による違い



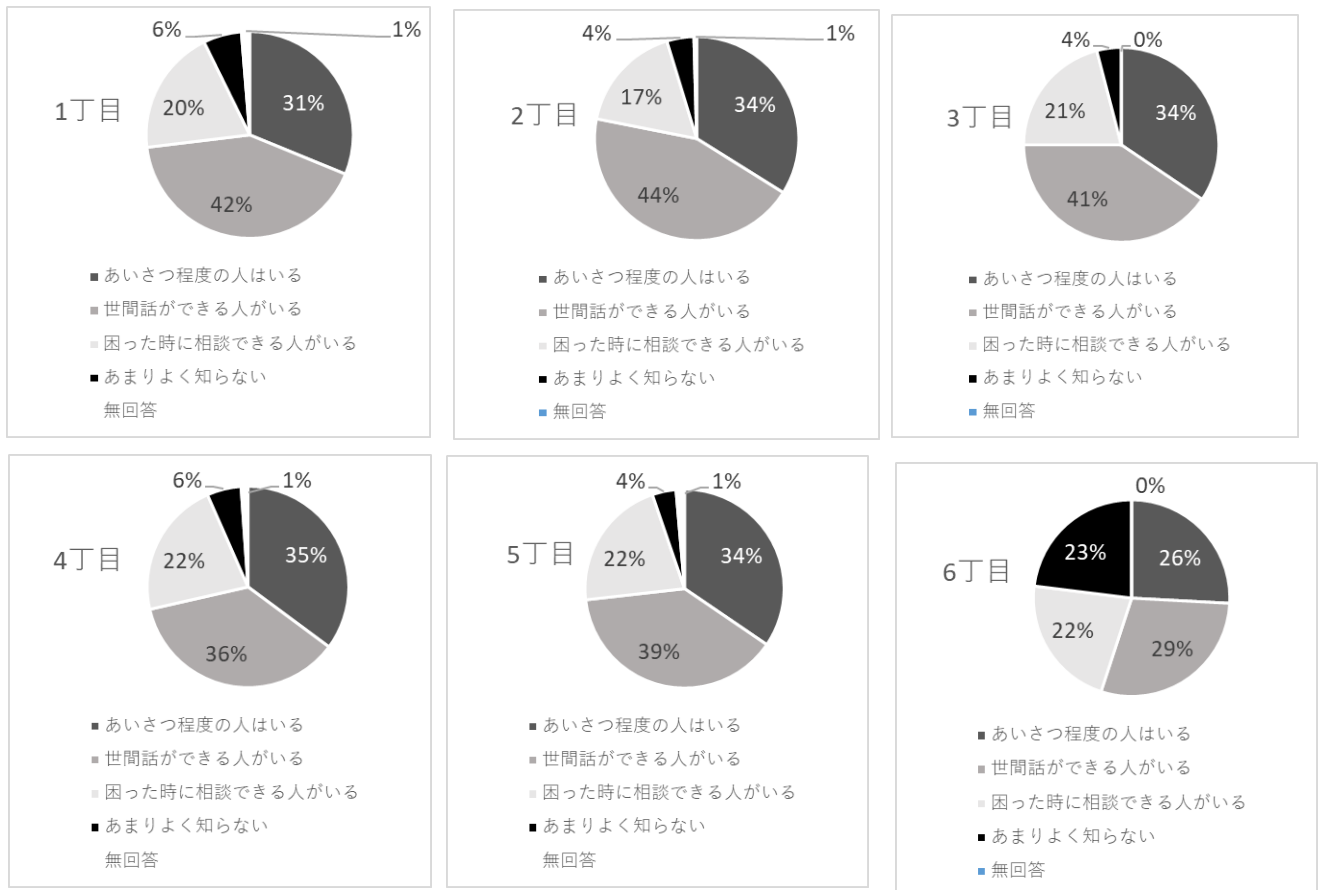
男性の方が「住み続けたいと考えている」と答えた方の割合が若干多かった

設問 8 ご近所であいさつや世間話、困りごとの相談ができる人がいますか？

- 1、あいさつ程度の人はいる
- 2、世間話ができる人がいる
- 3、困ったときに相談できる人がいる
- 4、知っている人があまりいない

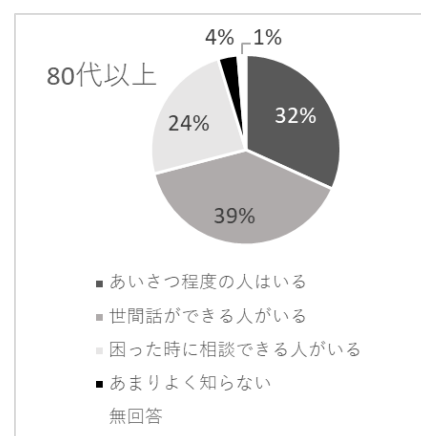
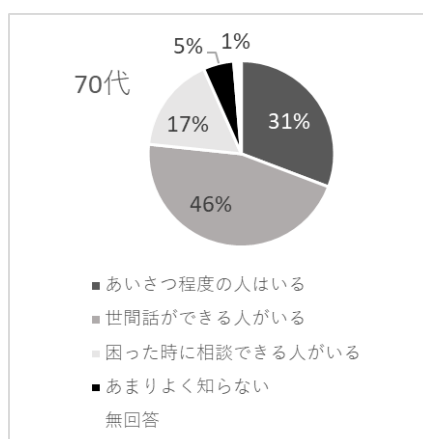
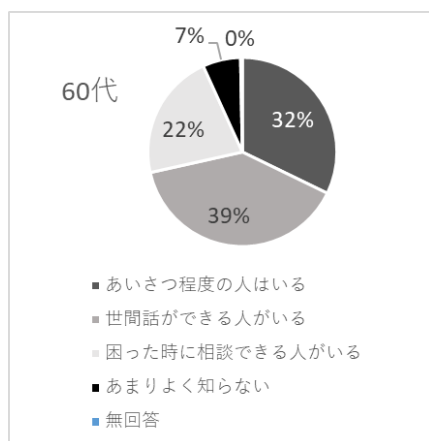
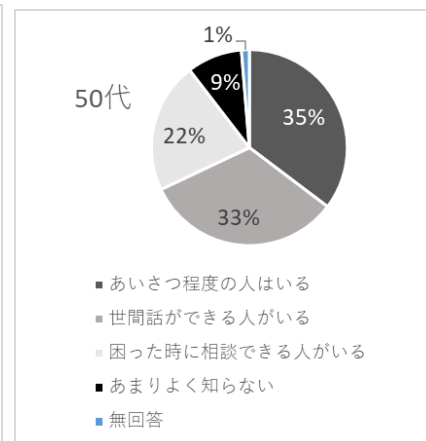
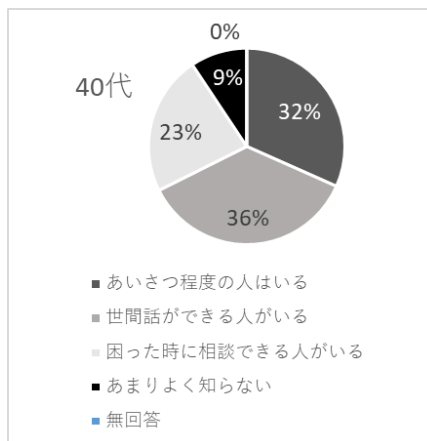
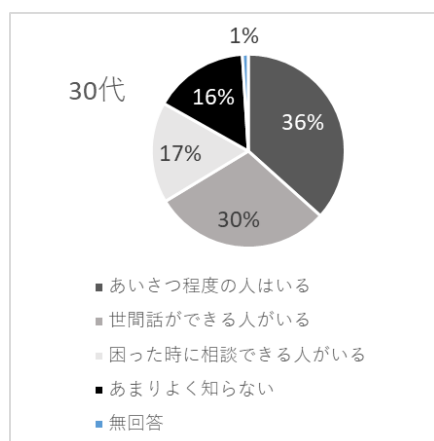


設問 8 に対する丁目による違い



6丁目（マンションにお住まいの方）は、「あまりよく知らない」という項目が他丁目より大きかった。1丁目～5丁目は戸建てがほとんどなので、住居形態により、近隣関係の様子が違うことがわかった。

設問 8 に対する年代による違い

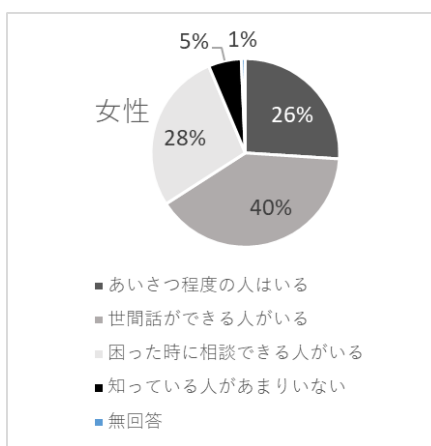
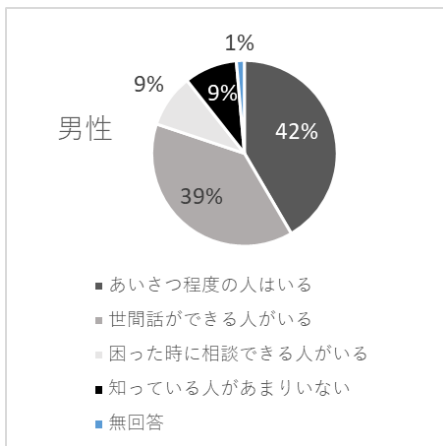


「あいさつ程度の人はいる」は、若い世代で若干多いようだが、「世間話ができる人がいる」では、高齢者の世代の方が多かった。

「困った時に相談できる人がいる」は、30代70代が若干低いですが、年代により大きな差はなかった。

居住年数や年齢により、近隣関係が大きく変化するほどではないようだ。

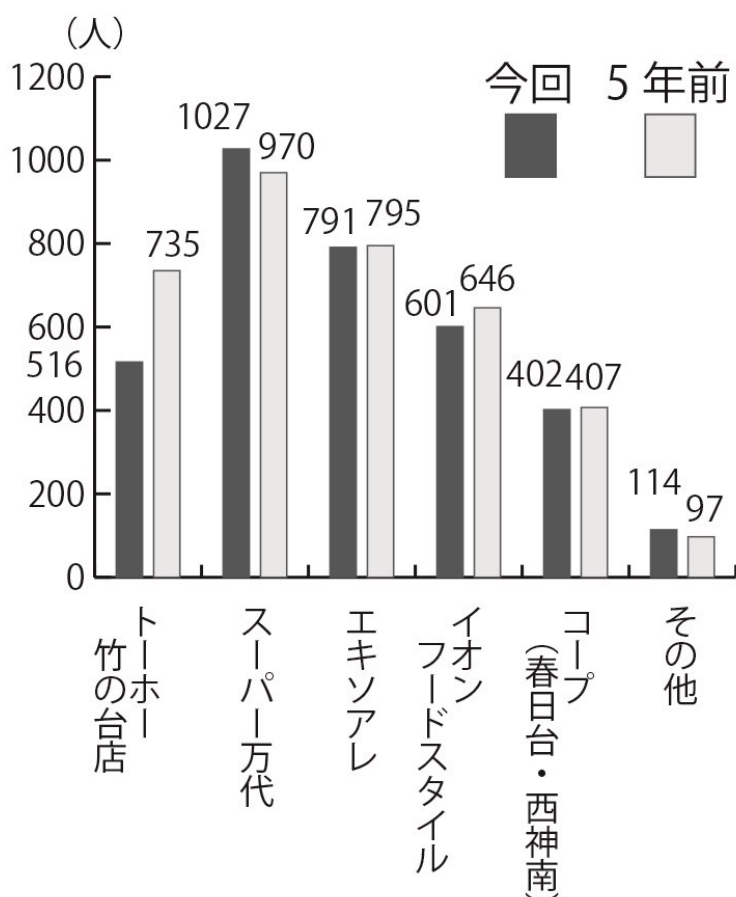
設問 8 に対する性別による違い



近隣関係を問うこの設問で、性別による差がはっきりでた。女性に比べ、男性はあいさつ程度はできるが、困った時に相談できる人がいないということがわかった。

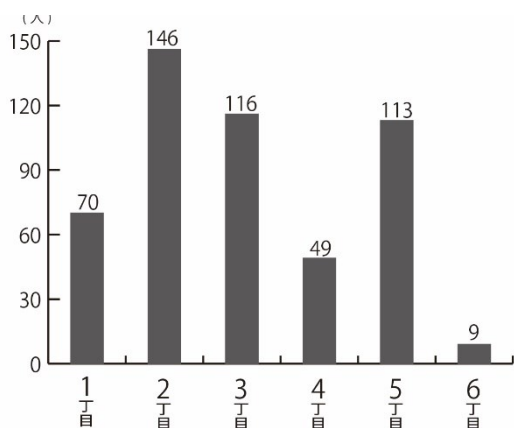
設問 9 食料品など日常の買い物は、どこのお店を利用していますか？（複数回答可）

- 1、トーホー竹の台店 2、スーパー万代 3、エキソアレ
4、イオンフードスタイル 5、コープ（春日台、西神南） 6、その他（ ）



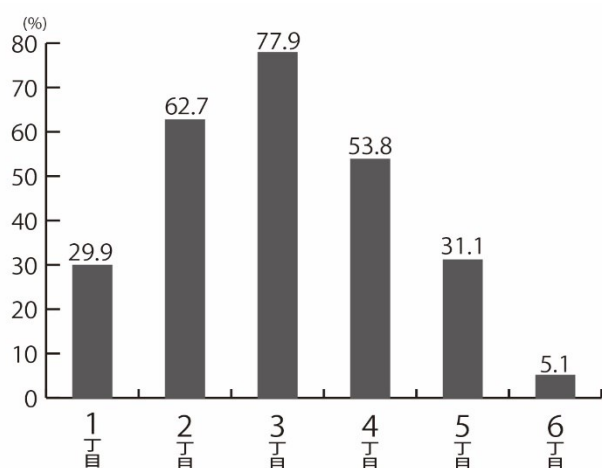
トーホー竹の台店を利用するという人数が大きく減り、同じ竹の台地域にあるスーパー万代を利用する方が増えた。そこで、2025年1月までに、トーホー竹の台店が閉店ということが決定したことを受け、もう少し詳細を調べてみた。

(図1) トーホー竹の台店を利用すると答えた方の丁目別人数



トーホー竹の台店を選んだ 516 人の方のお住まいの丁目を調べると、(図1)のような結果になった。

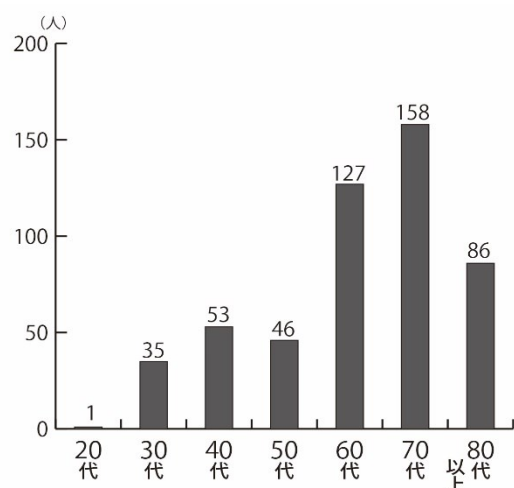
(図2) トーホー竹の台店を利用すると答えた方の丁目別割合



さらに、丁目ごとに、総人口の違いがあるため、丁目別にトーホー竹の台店を選んだ方の割合を調べると図2のようになった。(※例えば、本まちづくりアンケート回答者のうち、1丁目にお住まいの方は234人、そのうち70の方がトーホー竹の台店を選んだので、その割合は29.9%となる。)

トーホー竹の台店に近い2~4丁目の方が多く利用している様子がうかがえる。

(図3) トーホー竹の台店を利用すると答えた方の年代



利用者の年齢を調べてみた。

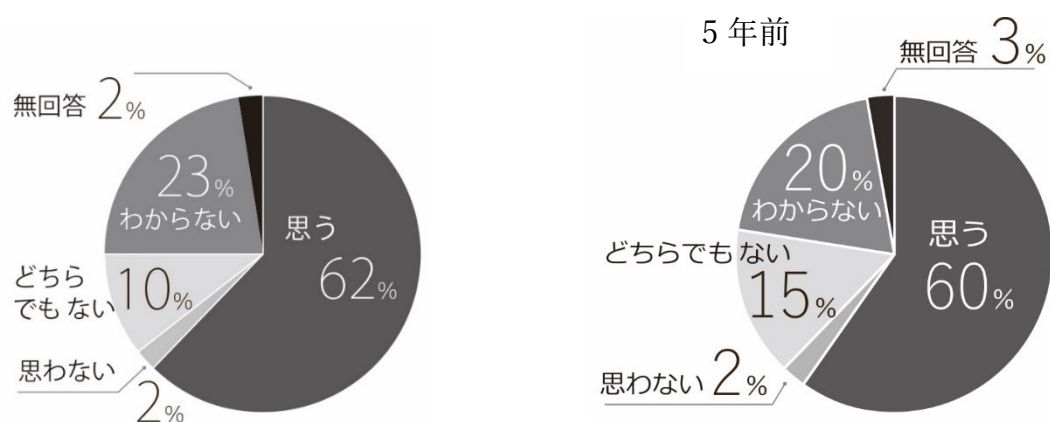
トーホー竹の台店を選んだ 516 人の年代を調べてみると、(図3)のように60代以上の方の利用が多いことがわかった。

図2、図3から、トーホー竹の台店利用者のうち多くの方が、周辺にお住まいの60歳以上の高齢者だとわかる。

(4) 子育てについて

設問 10 竹の台は子育てしやすい「まち」だと思いますか

1、思う 2、思わない 3、どちらでもない 4、わからない



各項目 5 年前とほぼ同じだった

設問 11 よろしければ、10 でその回答を選んだ理由をご記入ください。

全部で 618 件の回答があった。

① 思うと答えた方の代表的な意見 (409 件)

- ・ 治安がいい
- ・ 近隣に幼稚園や保育園、公園もあり病院やスーパーも有り、徒歩でも行ける距離にあるので便利
- ・ 学校が近い
- ・ 自然が多く道路も広く、公園もある
- ・ 歩道がしっかりあるので、ベビーカーでの移動がしやすい。
- ・ 登下校時の見守隊の方がいて大変ありがたい
- ・ 登下校を見守って下さる地域の方がいてとても感謝しています
- ・ 子供達の姿を見て感じる
- ・ 不審者が少ない
- ・ 児童館の先生が親切。近所の方が声をかけてくれる。地域が安全
- ・ 思いやりのある人が多い

② 思わないと答えた方の代表的な意見 (26 件)

- ・ 競争が激しい。常に評価を意識して行動している
- ・ 公園の利用が大人中心である
- ・ 病児保育施設があればよい
- ・ 塾や習い事をするのが当たり前のようになっている

③ どちらでもないと答えた方 (55 件)

- ・もう少し子供の数が多ければよい
- ・引っ越したばかりでわからない
- ・子育てサークルや子供達が集まれるような場が少ないように思う
- ・児童館の学童でないこどもは利用しにくい、公園も遊具が少ない
- ・高齢者が多い為、子育て世代との交流が少ない
- ・今は子育ての時期が過ぎたので、現状はわからない

④ わからないと答えた方 (128 件)

- ・子どもがいないから
- ・今子育て中では無いので分からない
- ・子供は卒業した。過去のことは別にして、現状子育てしやすいかどうかはわからない

設問 12 地域の中に「あったらいいな」と思う、子育てをサポートするサービスや仕組みがありましたら、具体的にご提案ください。

全部で 300 件の回答があった。

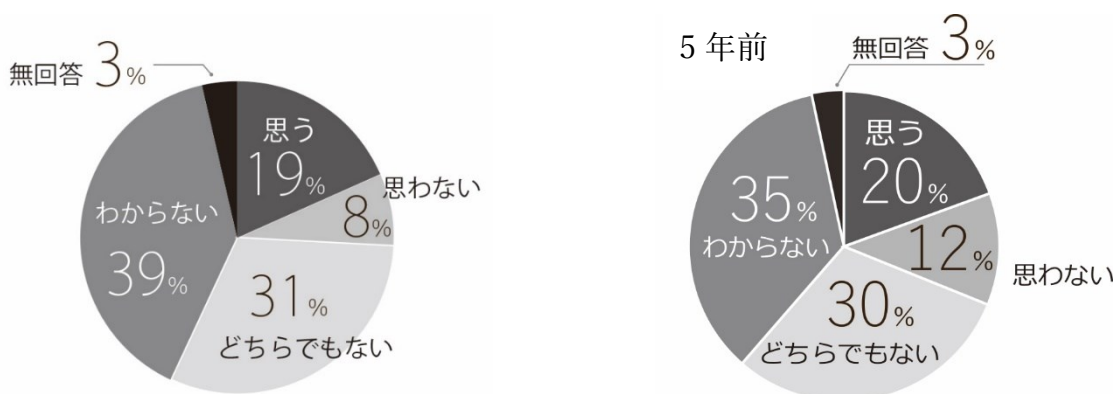
- ・放課後開放している安全な遊び場
- ・急病時預かり施設があると助かる
- ・竹の台の子供が交流できる施設
- ・親子で集えるようなサークルや施設などあれば、もっと周りと繋がれる機会が増えると思う
- ・こども食堂、保育園の送迎、小学生の登校前の預かり所
- ・雨の日でも遊べる施設
- ・明石の「ハレハレ」のような室内で遊べる施設が欲しい
- ・公園の中におしゃれなオープン喫茶があれば楽しいのでは
- ・公園に幼児が遊べる遊具を増やして欲しい
- ・2~3 時間の子供を預けられるセンターみたいな所があれば母親は助かると思います
- ・手軽な弁当屋など
- ・竹の台公園の遊具を充実させてほしい
- ・学校に関する困り事を相談する窓口
- ・学校以外にも子どものカウンセリングや相談が気軽にできる場があるとありがたいです
- ・宅配の食事がもっと多いと嬉しい
- ・子供と高齢者が一緒に触れ合う施設
- ・世代間交流ができる場所

- ・ 子供会のような組織やイベント
- ・ 市看護大学内にあるコラボカフェのような親子がいつでも利用出来るような保育スペースがあると便利で安心
- ・ 子育て中の人達が使わなくなった育児用品や絵本などを持ち寄り交流をかねたバザーが公園や集会所などで開かれるような取り組み
- ・ ポイント制などで一時的に子供をあずかる仕組みなど
- ・ 子育て講座の充実
- ・ 土日祝に短時間みてもらえるサービス

(5) さまざまな人が暮らすまち

設問 13 竹の台は、高齢者や障がいをお持ちの方にやさしい「まち」だと思いますか？

- 1、思う 2、思わない 3、どちらでもない 4、わからない



「思わない」が4%減って、「わからない」が4%増えた

設問 14 地域の中に「あったらいいな」と思う、高齢者や障がい者をサポートするサービスや仕組みがありましたら、具体的にご提案ください。

全部で361件の回答があった。

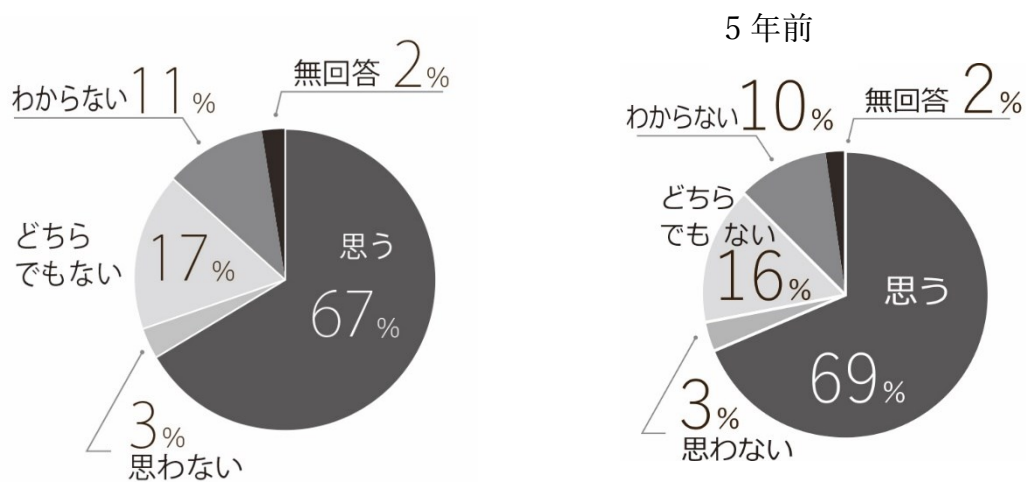
- ・ いろんな所に休憩出来る椅子がほしい
- ・ 気軽に行けるサロンみたいな場所
- ・ もう少し色々な高齢者施設があったら良いと思います
- ・ たけのパークのような場所
- ・ 特別養護老人ホーム、グループホーム
- ・ 毎日通える居場所（畑・喫茶店・居酒屋）
- ・ 5号線歩道に数か所、ベンチ（休憩所）があったらよい

- ・ 段差のない横断歩道
- ・ 高齢者等にとり、ゴミ出し等重たい物の持ち運びの支援が必要になると思う
- ・ 少し歩けば買い物ができるコンビニがあればとおもう
- ・ 体操教室などフレイル予防、認知症予防になる場所
- ・ 市バスのコースからはずれているので不便
- ・ ゴミ出しをサポートするなど、生活に密着したもの
- ・ 高齢独居になってきて困った時の行政の専門相談窓口があれば
- ・ コミュニケーションがとれる環境作り
- ・ 移動手段（敬老バス、車）一人暮らしの方の緊急時の連絡先
- ・ 各団地毎に常にサポートするしくみを構築する
- ・ 相談が気軽に出来る窓口
- ・ 仕組みの前に、住民の受け入れる意識が低い
- ・ ごみ捨て等の助け合い
- ・ 自治会に替わる別の形。高齢者が増えてきて、新しい世帯は加入せず、今の世の中に合っていない
- ・ 買い物できやすいようなサービス
- ・ 災害等の場合不安、安否確認等しくみを具体的に作ってほしい
- ・ 病院等への送迎サービス
- ・ 認知症等高齢者対応窓口
- ・ 老人会が少ない。活動している人はわずか、入会する方法がわからない

（6）安全・防災

設問 15 竹の台は、安全な「まち」だと思いますか？

1、思う 2、思わない 3、どちらでもない 4、わからない



各項目 5 年前とほぼ同じだった

設問 16 竹の台では、平成 17 年度からボランティアによる登下校の見守り活動を続けています。しかし、現在新たなボランティアの参加が少なく、存続が危ぶまれています。どうすれば参加者を増やすことができると思いますか？

全部で 449 件の回答があった。

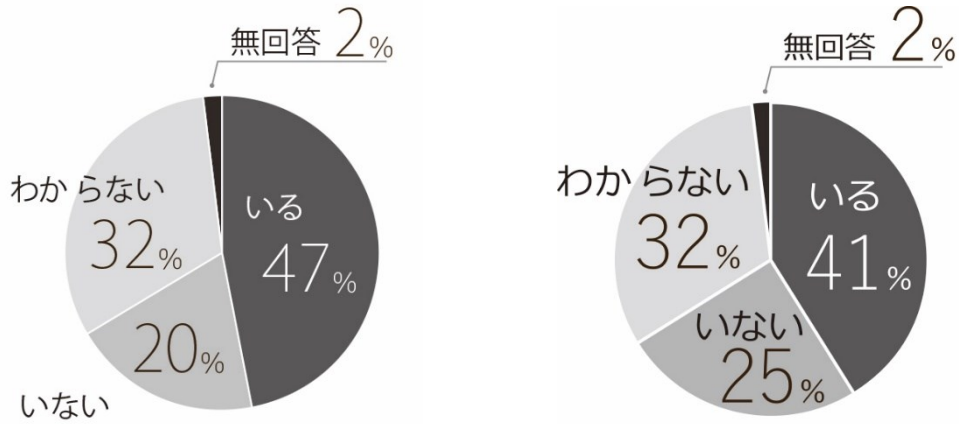
代表的な意見

- ・労働としての対価を払う
- ・公的補助を実現して有償化する
- ・有償ボランティア化
- ・保護者からの謝礼
- ・老人会のさらなる協力　スポーツや趣味の団体にも協力してもらう
- ・子供の親が順番に参加すればいい
- ・無くなっても問題ないのでは？
- ・参加して頂いた方に、たけのパークで使用できる割引券の配布
- ・自治会費の有効活用を図る
- ・見守り回数にあわせた健康ポイント（電子マネーに換金可）又はたけのプラザ？のランチ券やコーヒー券に引き換えできるなど
- ・繰り返し呼びかけを行う
- ・IT の時代、見守りに理解を示してくれる人達を対象として、まず親御さんを筆頭に、お年寄りから若者まで、空き時間を登録して、下校時間、曜日とマッチングさせるアプリを作って運用してはどうか。
- ・参加可能な日程の入力などインターネットで手軽に出来たらハードルが下がると思っています
- ・ボランティアに気軽に参加できるように、見守りだけでなく、ボランティアの種類やシステムなど住民に周知する必要があると思う
- ・散歩やウォーキングの時間を登校に合わせるなど無理なく参加できるような仕組み
- ・なんとなく、始めたらやめられないイメージがあるので、毎日ではなく、自分のペースでされている方のサイクルの表示とインタビューを竹の台新聞に掲載する。
- ・ウォーキングや買い物している住民が見守りプレートを身につける
- ・お年寄りと子供達の交流する機会を増やす
- ・保護者が参加
- ・私自身は参加したいと思っているが、窓口が分からない
- ・まずは近隣の方々顔を合わせる機会づくりから始めないといけないと思います。その意味でも、ふれあいまつりは良い企画だと思います
- ・年配の人しかできないと思っている人も多いのでは
- ・ボランティアの方による活動がどれほど防犯につながっているか、ボランティアの方が少ない地域と数値化して比較して周知してもらう

6丁目（マンション）の参加率が突出して低い結果となった。
 5年前のアンケートでは、マンションの参加率は2割強だったので、
 5年たった今回も、ほとんど増えていないことになる。

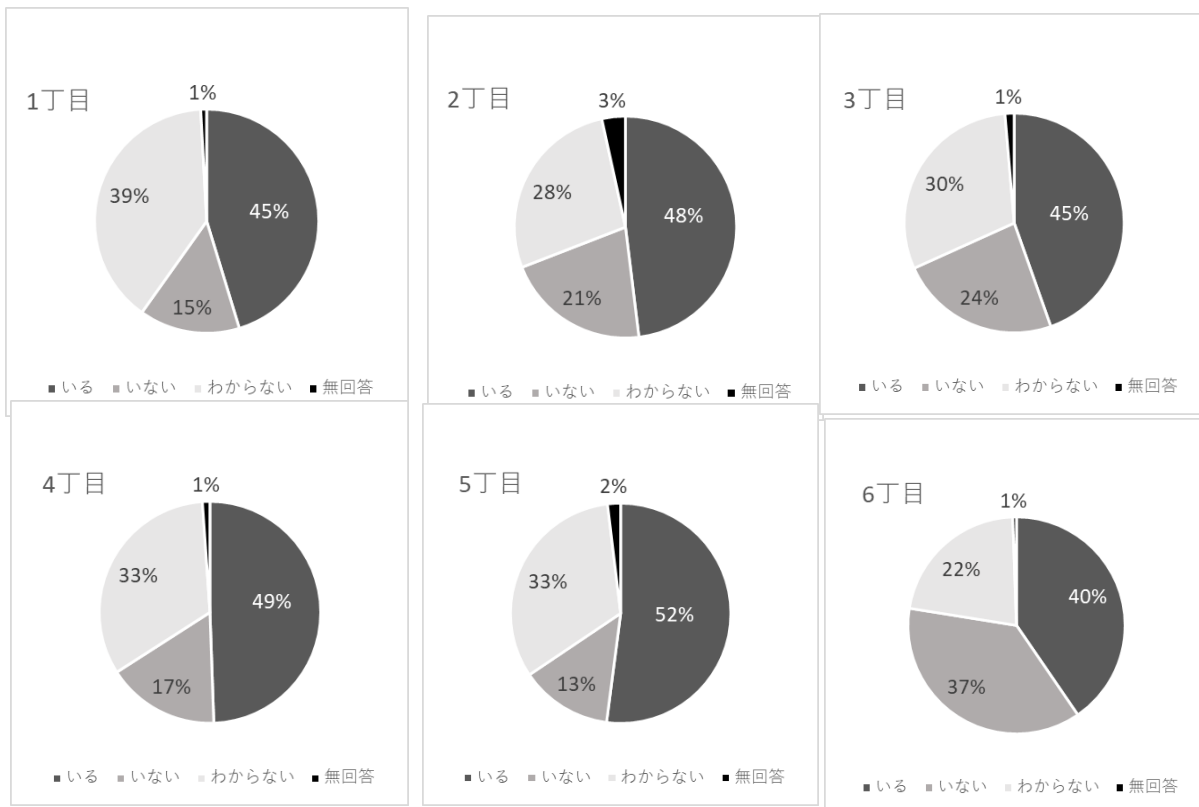
設問 18 災害時、ご近所で安否確認をしてくれる人はいますか？

- 1、いる 2、いない 3、わからない



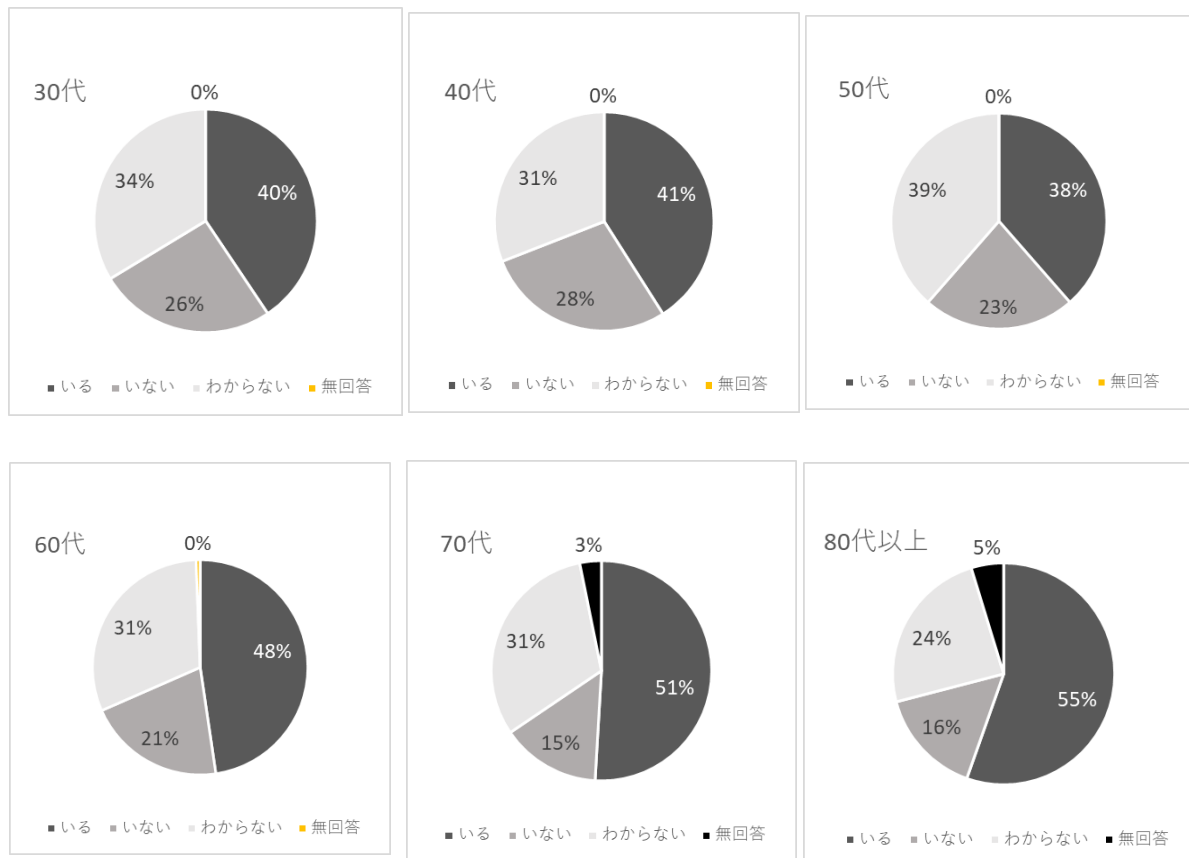
5年比べ、「いる」と答えた方が6%増え、「いない」と答えた方が5%減った。令和6年1月に起きた能登半島の地震では、発災直後に地域で安否確認できるかどうか、救助してもらえるかどうかのカギとなった。増えたとはいえ、住民の半数が近隣で安否確認してくれる人が「いない」「わからない」と答えている。

設問 18 に対する丁目による違い



6丁目（マンション）で、「いない」と答えた方の割合が最も多かった。他の丁目では、大きな差はなかった。

設問 18 に対する年代による違い

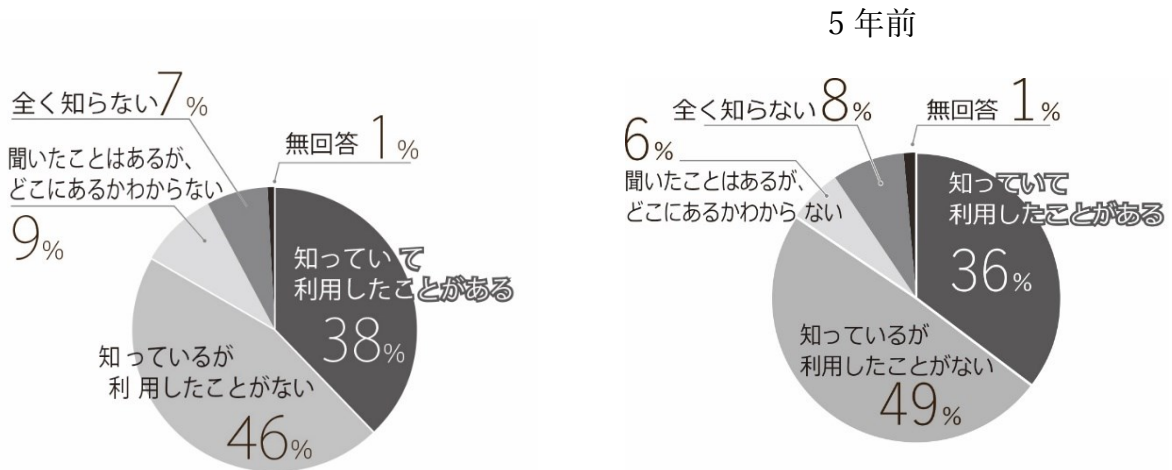


年代が上がるほど、安否確認をしてくれる人が「いる」割合が上がった。

(7) 地域の活動・拠点・つながり

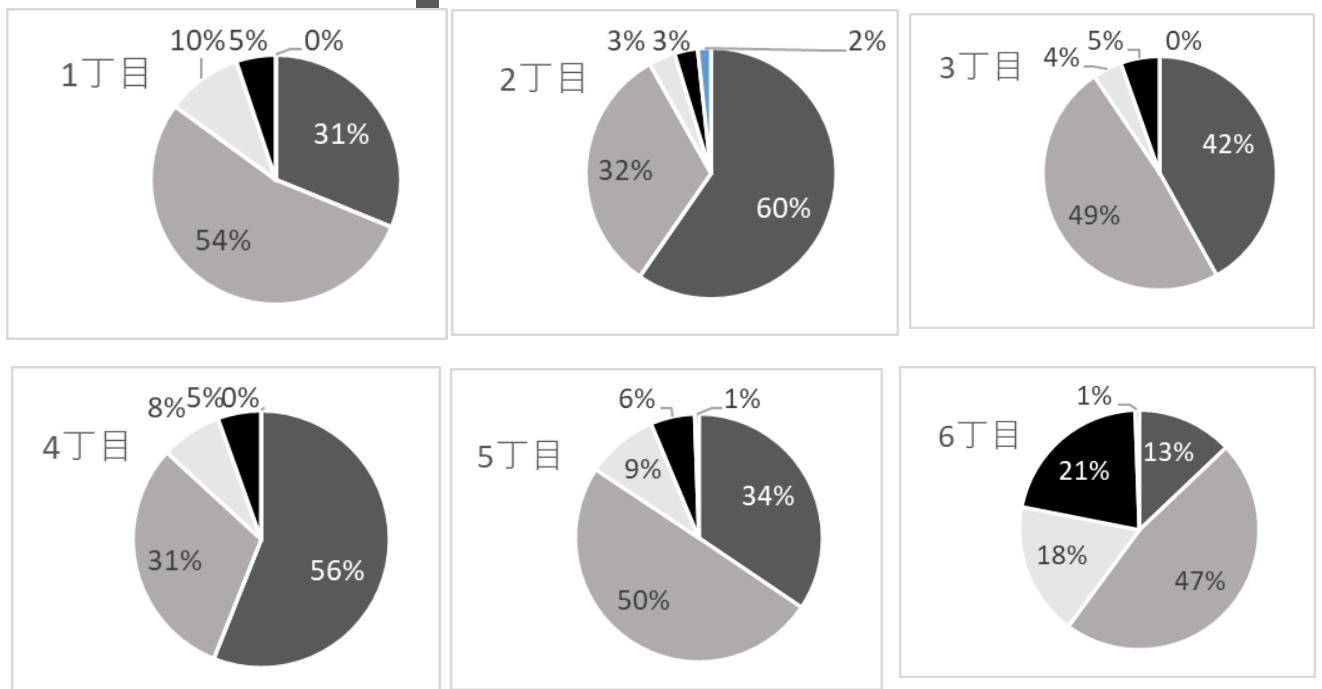
設問 19 「竹の台地域福祉センター」を知っていますか？

- 1、知っているが利用したことがある 2、知っているが利用したことがない
3、聞いたことはあるがどこにあるかわからない 4、全く知らない



利用したことがあるかどうかを別にすれば、地域福祉センターを知っている人が、84%（5年前 85%）だった。
住民に周知されている施設といえるのではないか。

設問 19 に対する丁目による違い



- 知っているが利用したことがある
- 知っているが利用したことがない
- 聞いたことはあるがどこにあるかわからない
- 全く知らない

地域福祉センターが6丁目から最も遠い場所にある、マンション自身に集会所があるということからか、6丁目（マンション）では、「全く知らない」という割合が多かった。

他の丁目では、「知っていて利用したことがある」「知っているが利用したことがない」を併せると、8割以上の方が地域福祉センターを知っており、施設としての認知度は十分あると言えるのではないかと。

5年前アンケート結果

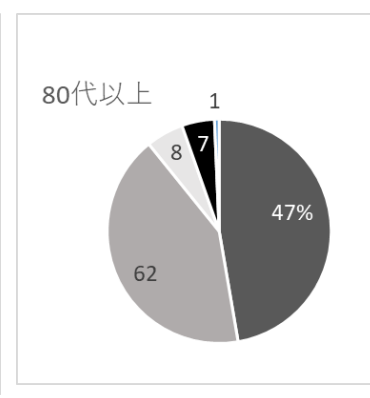
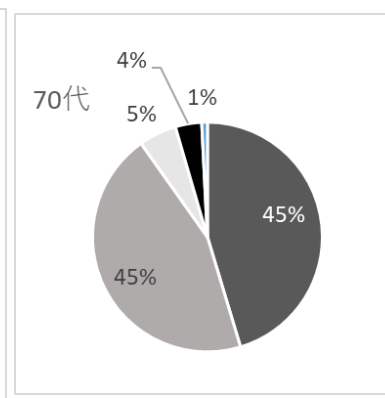
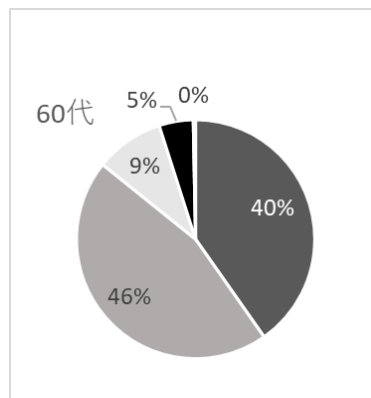
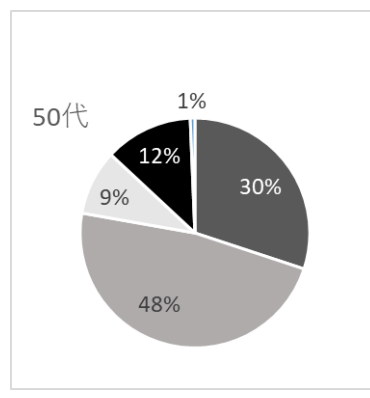
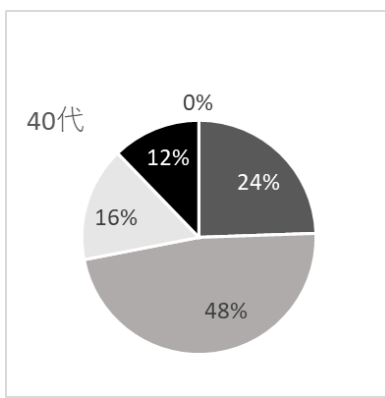
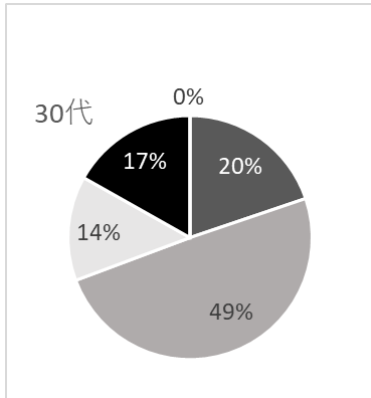
1丁目と5丁目の管理組合は、6丁目（マンション）と同じように、地域福祉センターからの距離が遠い、共有財産として集会所を利用している。

1丁目と5丁目の管理組合の方の地域福祉センターの認知度を調べたところ、自治会の認知度と同じ位だった。（2019年度アンケート結果参照）

つまり、6丁目（マンション）の方は、福祉センターまでの距離が大きい、自分の集会所を持っているという理由以外に理由があるということになる。

設問8で、6丁目（マンション）の方は、近隣との関係に対する意識が、1丁目～5丁目（ほとんど戸建て）の方と違っていることが分かっている。このことが大きく関係しているのかもしれない。

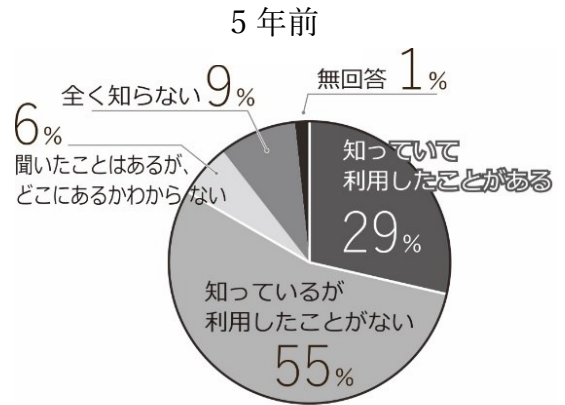
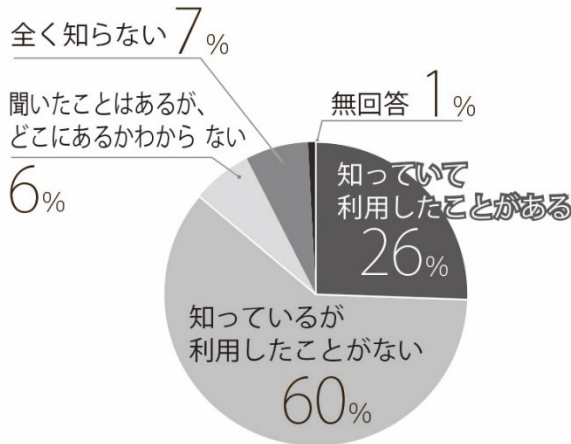
設問 19 に対する年代による違い



年代が上がるほど、「知っていて利用したことがある」と答えた方が増えた。さらに若い年代ほど、「全く知らない」と答えた方が多くなった。

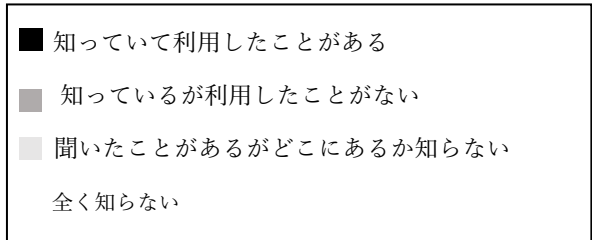
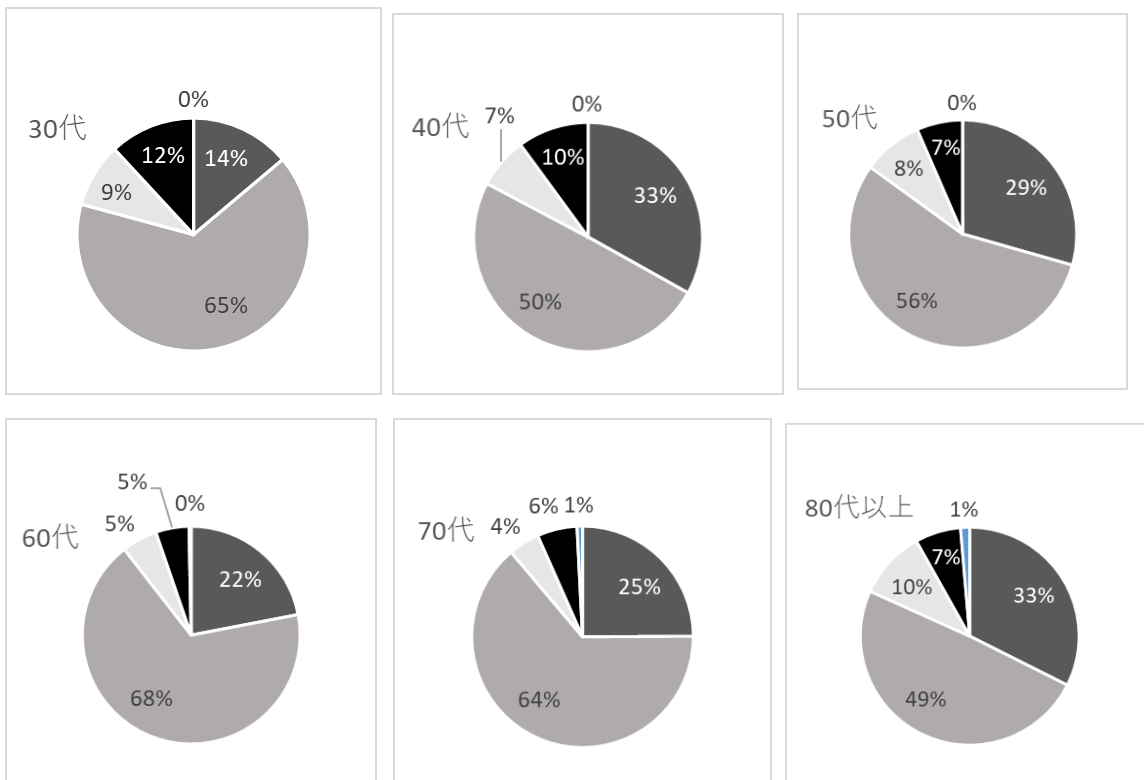
設問 20 住民交流施設「たけのパーク」(通称「たけパ」)を知っていますか？

- 1、知っているが利用したことがある 2、知っているが利用したことがない
 3、聞いたことはあるがどこにあるかわからない 4、全く知らない



地域福祉センターは「知っているが利用したことがある」と答えた方が38%だったのに比べ、26%に止まった。利用したことがあるかどうかを別にすれば、たけのパークを知っている人が、86%（5年前84%）だった。住民に周知されている施設といえるのではないか。

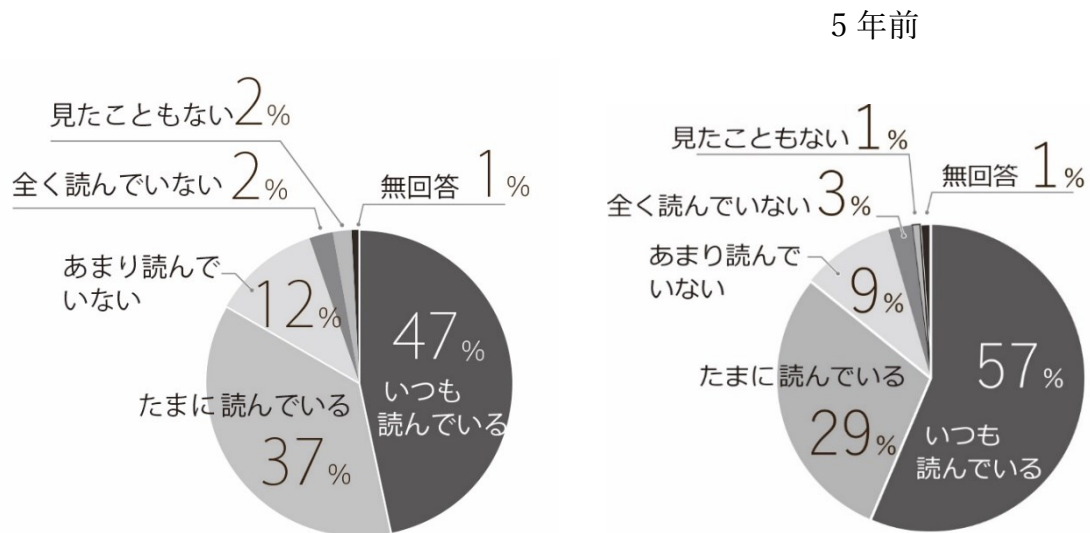
設問 20 に対する年代による違い



思ったほど、年代による利用差は大きくなかった。

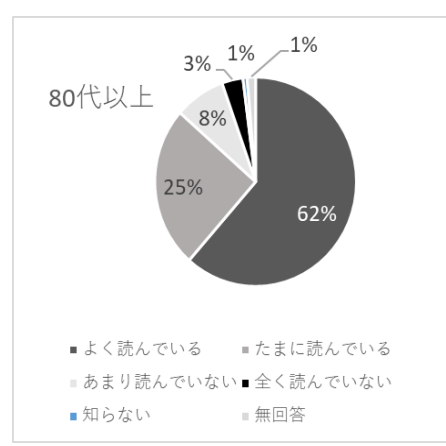
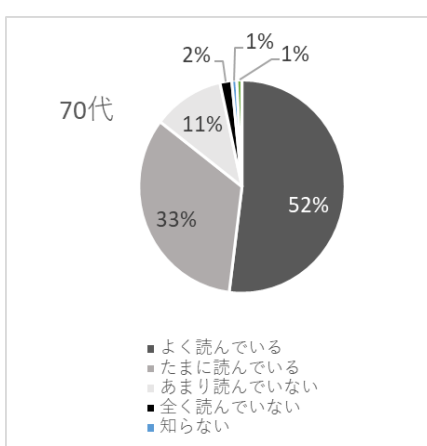
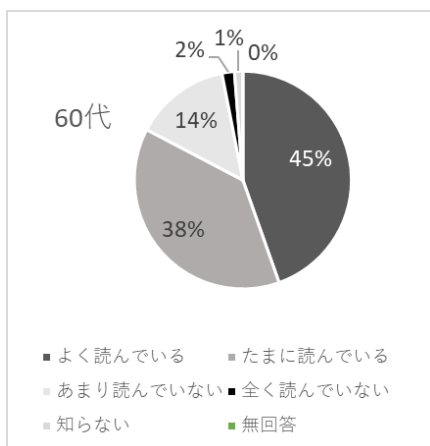
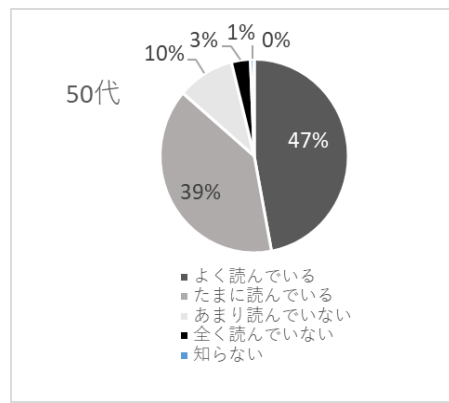
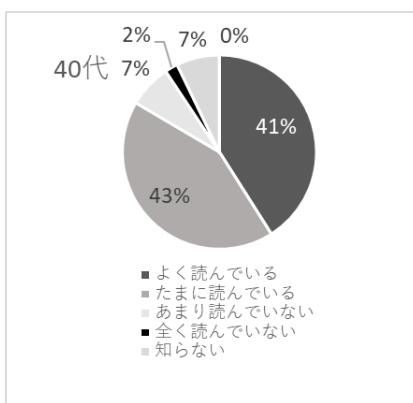
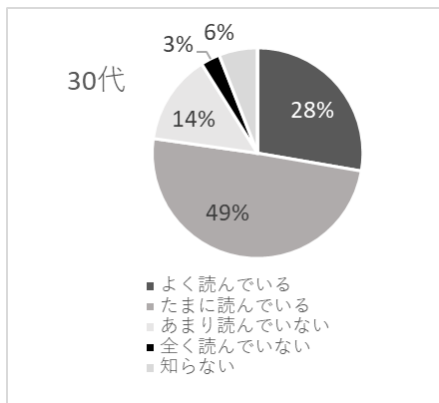
設問 21 「竹の台総合新聞」を読んだことがありますか？

- 1、よく読んでいる 2、たまに読んでいる 3、あまり読んでいない
4、全く読んでいない 5、知らない



「いつも読んでいる」と答えた方が5年前に比べ57%から47%に減った。「たまに読んでいる」という方が、5年前に比べ29%から37%に増えた。熱心に読んでいる方が減ったということかもしれない。

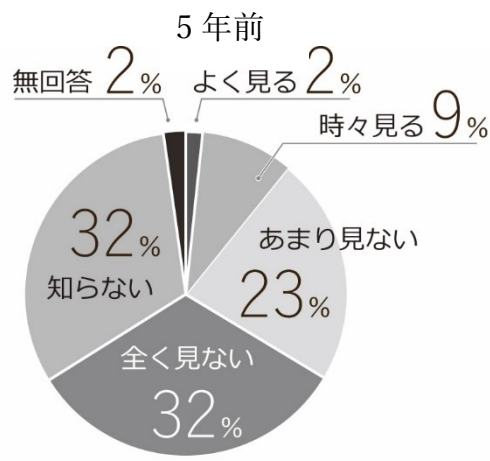
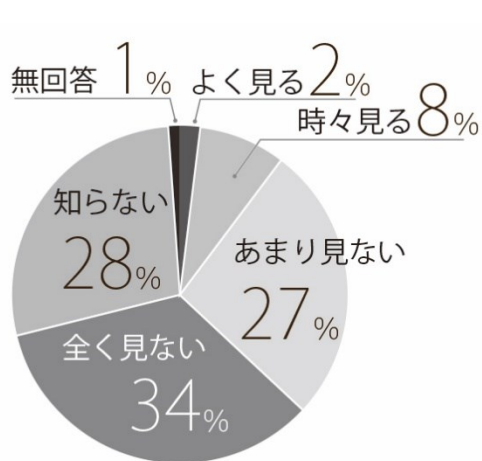
設問 21 に対する年代による違い



「いつも読んでいる」と回答したのは、高齢者が多かった。
特に「いつも読んでいる」と答えたのは、30代で28%、80代以上で62%と2倍以上の差があった。

設問 22 竹の台地域のホームページを見たことがありますか？

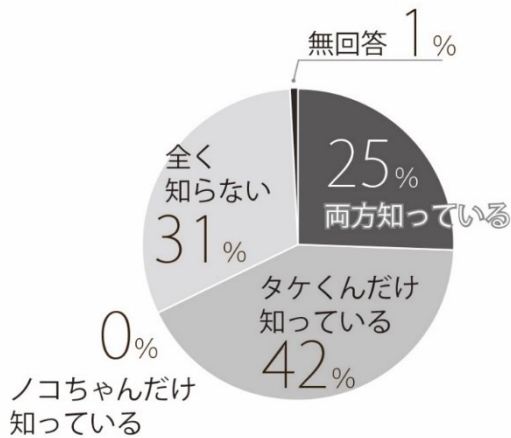
- 1、よく見る 2、時々見る 3、あまり見ない 4、全く見ない
5、知らない



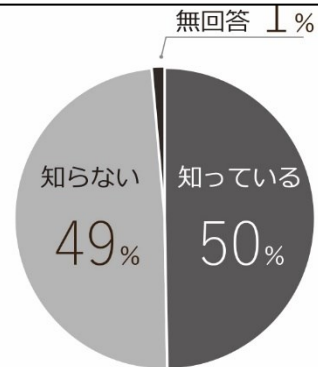
5年前とほぼ同じ結果だった

設問 23 竹の台のイメージキャラクター「タケくん」「ノコちゃん」を知っていますか？

- 1、両方知っている
- 2、タケくんだけ知っている
- 3、ノコちゃんだけ知っている
- 4、全く知らない



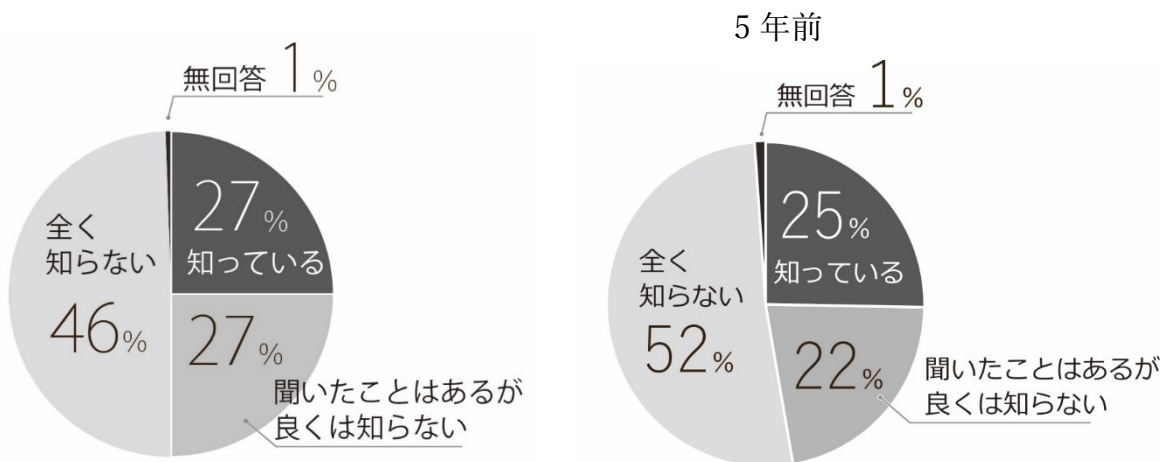
5 年前 竹の台のイメージキャラクター「タケくん」を知っていますか？



5 年前は「ノコちゃん」が正式なキャラクターではなかったため、アンケートの対象ではなかった。
 今回「両方知っている」「タケくんだけ知っている」と答えた方 67%
 5 年前タケくんを「知っている」と答えた方が 50%だったので、認知度が上がったと考えられる。

設問 24 竹の台では「オーリーブを使ったまちづくり」に取り組んでいます、知っていましたか？

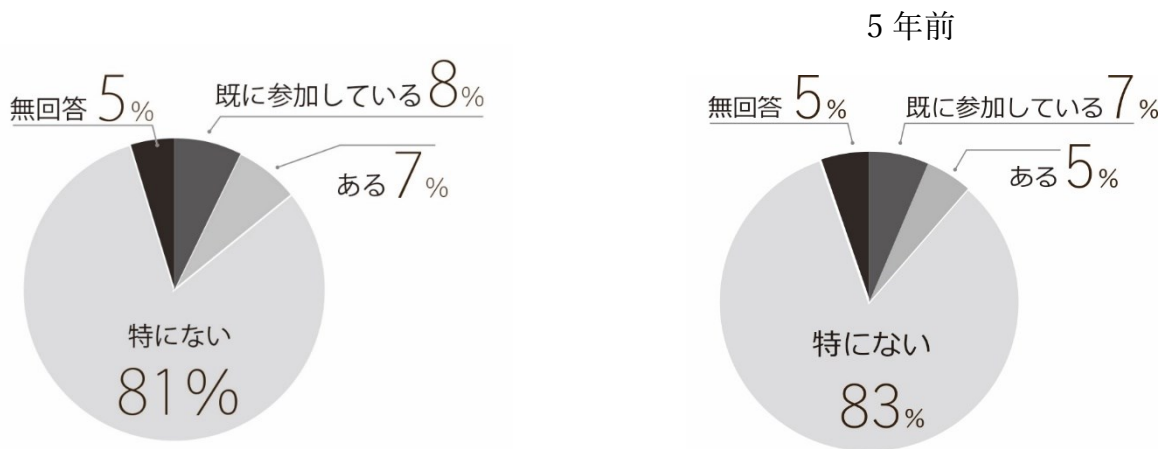
- 1、知っている
- 2、聞いたことはあるがよく知らない
- 3、全く知らない



若干、知名度が上がったようだ。

設問 25 竹の台で、ボランティアとして参加してみたいイベントや活動はありますか？

- 1、すでに参加している 2、ある 3、特にない



5年前とほぼ同じ結果だった

設問 26 参加してみたいイベントや、「あったらいいな」と思うボランティア活動があれば、ご記入ください。

全部で 138 件の回答があった。

- ・茶話会
- ・地域清掃美化
- ・街の植え込みに花を植える
- ・一回だけでも参加出来るボランティア。親子で参加出来るもの
- ・子供と参加できる清掃活動や植物の手入れ
- ・高齢者への声かけ
- ・退職後は見守りに参加したい
- ・竹を使った遊具等を作る
- ・簡単な家の中のメンテで困っている方へのサポート。照明の交換、家具の配置換え、重量物の移動などへの登録
- ・外国人住民な日本語指導
- ・子どもたちへの絵本の読み聞かせ
- ・竹の台祭りのような地域イベント
- ・乳幼児と遊ぶ
- ・町内一斉清掃
- ・高齢者の外出介助
- ・相互に必要な時に遠慮せずに助け合うことの出来る仕組みが必要

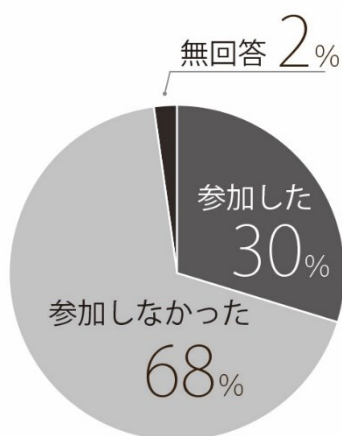
- ・ 太極拳とか健康維持に関係するもの
- ・ 竹の台全域で参加できる清掃活動などがあればと思います
- ・ 小中学校の先生方の過酷な勤務状況を知り、本来の仕事以外のお手伝いがあれば参加したいです
- ・ 竹の台祭りに今まであまり参加で来てなかったもので、今後、出来ることがあればお手伝いしてみたいです
- ・ ゴミ掃除
- ・ パンジー大作戦に参加してみたい
- ・ 小学校から連絡がきた公園そうじボランティア（子供と一緒に参加する）に参加したかった
- ・ PC や家電製品などの修理、相談
- ・ ラジオ体操
- ・ 赤毛のアンがつけた「輝く湖水」等公園や池に素敵な名前をつけ、地域を散歩する
- ・ 退職したら見守り活動に参加してみたい
- ・ 不用品のバザー
- ・ 子供食堂
- ・ 自然観察（木、雑草、鳥など）
- ・ 高齢者のスポーツ大会

（８）学校とのつながりについて

設問 27 昨年度（令和４年度）に開催された「竹の台ふれあいまつり」に参加しましたか？

1、参加した

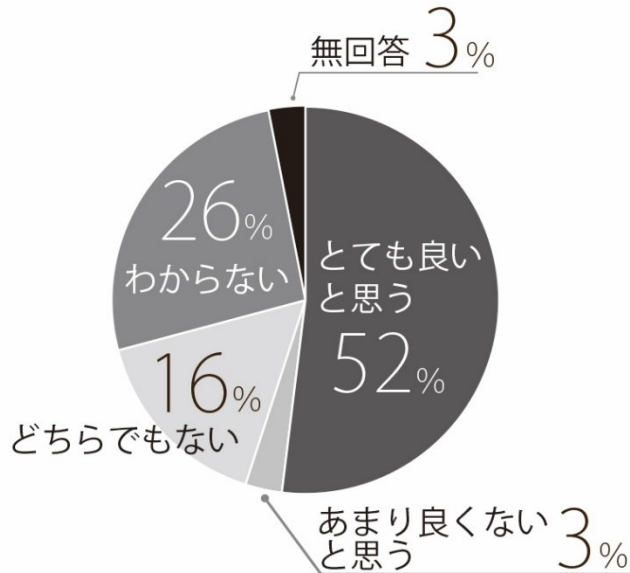
2、参加しなかった



回答した方の 30%が参加したと答えている。これをアンケートを実施した 2023 年 6 月の総人口 8479 人の 30%が参加したと考えると、2543 人が 2022 年 11 月のふれあいまつりに参加したことになる。

設問 28 小学生の参画についてどう感じますか？

- 1、とても良いと思う 2、あまり良くないと思う
3、どちらでもない 4、わからない



52%の方が「とても良いと思う」と回答した。
「あまり良くないと思う」と答えた方は3%だった。

設問 29 よろしければ、28 でその回答を選んだ理由をご記入ください。

全部で 397 の回答があった

設問 27 で「参加した」と答えた方 (回答数 320)

- ・ 校内生活とは異次元の体験が出来る
- ・ 故郷意識が高まるのでは、と思う
- ・ 子供の頃から地域活動に関心を持つ事が必要と思う
- ・ 地域でこどもたちを支える気運につながるため
- ・ 道で出会った子供達が声を掛けてくれる、挨拶をしてくれる
- ・ 地域を知る機会になる
- ・ 学校の様子を知ることが、理解の一步
- ・ 子ども達が人を呼び込んだり、声掛けが出来るようになる。地域の人と話すきっかけの1つとなっており良いと思う
- ・ 地域の中で暮らしているという意識が子供達に芽生えやすくなると思う
- ・ 子供が楽しそうだったので
- ・ 児童は地域の一員としての認識を得、児童の活動を見て大人も元気づけられる
- ・ 子ども達が考えた企画に住民が参加できる。大人も子どもも楽しめる機会になった
- ・ 体験を通じて色々な人とのコミュニケーションができる
- ・ 竹の台はPTAがないため、学校と保護者、地域とのつながりが必要
- ・ 子供達がイキイキしてたと思います
- ・ 離島や地方ではあたり前のこと、地域参画は学業のひとつ

- ・ 6丁目マンションの子供たちは「竹の台」という地域性にふれあう機会が少ないので、ふれあいまつりの機会は貴重だと思います

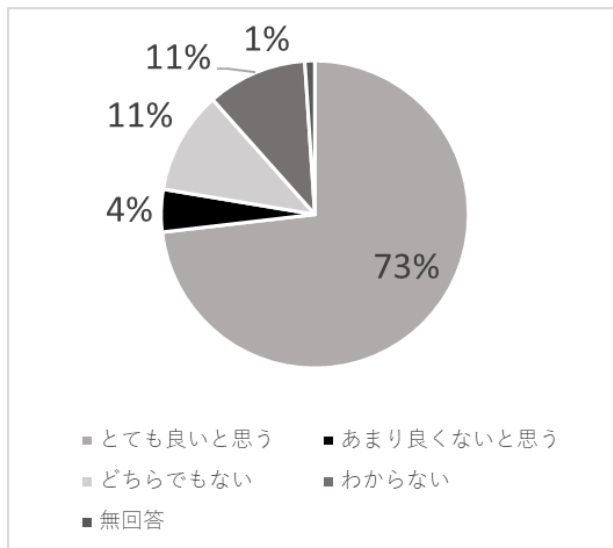
設問 27 で「あまり良くない」と答えた方（回答数 30）

- ・ 友だちがいない子は楽しめなさそう
- ・ 学校の行事にすると「粋」を感じてしまい、「まつり」の感じではない
- ・ 強制的なのは良くないと思います
- ・ 音楽会と時期が同じで子供の代休が続く。共稼ぎ家庭は非常に困る
- ・ 自由参加にすべき

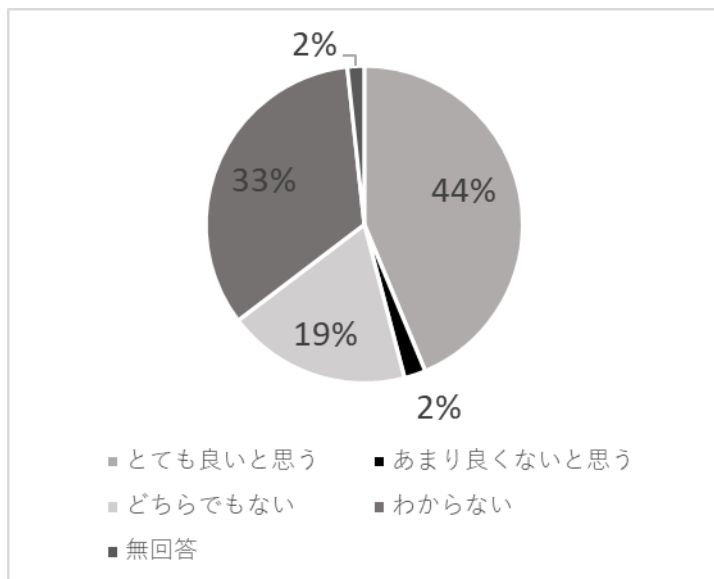
設問 27 で「どちらでもない」「わからない」と答えた方（回答数 47）

- ・ 子供達に押しつけるのではなく、「竹の台ふれあいまつり」をテーマにした話し合いや、子供達が考えた住民との【ふれあい】を内容に練り込めばいかがでしょうか
地域委員会と子供達と住民の熱の温度差を少し感じます
- ・ 地域と子どもたちがつながる場ができるのは良いが、小学校に負担がかかるのではないかと思う
- ・ 残念ながら参加しなかったので
- ・ 小学生が参画していたこと、知りませんでした

設問 27 で「参加した」と答えた方は設問 28 でどう回答しているか

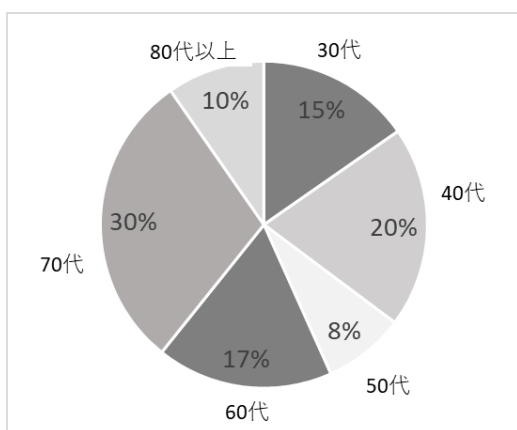


設問 27 で「参加しなかった」と答えた方は設問 28 でどう回答しているか

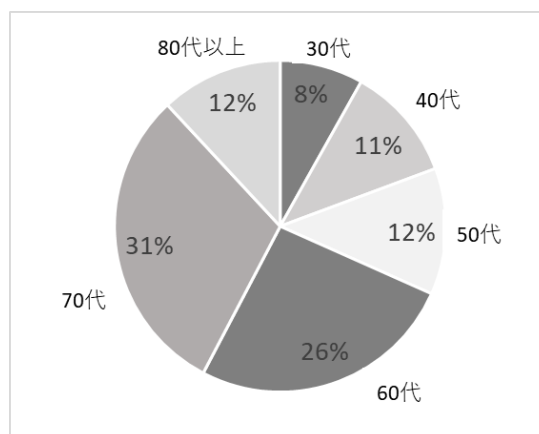


「参加した」と答えた方の 73% が小学校の参画について「とても良いと思う」と答えている。
 それに対し、「参加しなかった」と答えた方で「とても良いと思う」と答えた方は 44% で大幅に減った。また、「どちらでもない」「わからない」と答えた方は合計 42% だった。

「参加した」と答えた方の年齢構成



アンケート回答者の年齢構成

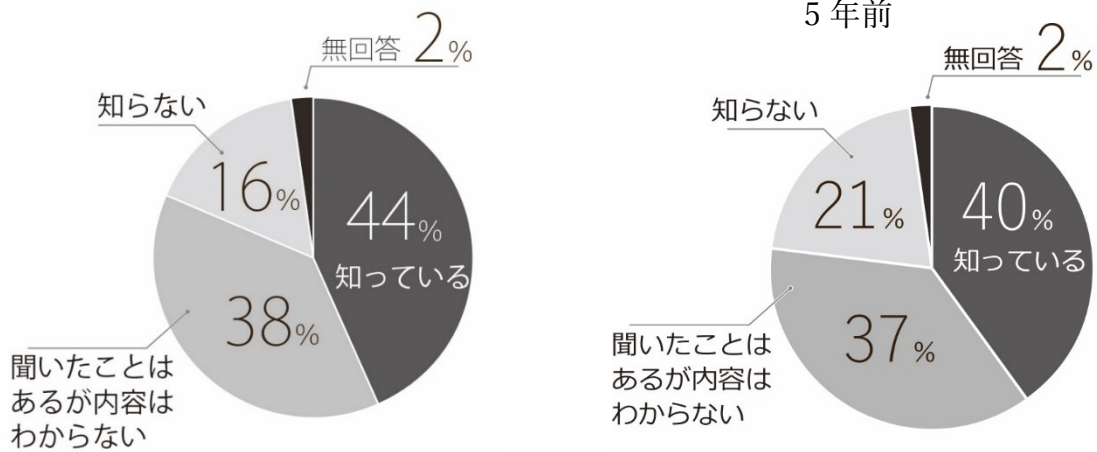


アンケートの回答者のうち、30代 40代が 19% だったが、ふれあいまつりに参加したという 30代 40代の回答者が 35% となった。
 多くの保護者の方がふれあいまつりに参加したことが伺える。

(9) 住民自治組織について

設問 30 竹の台地域委員会を知っていますか？

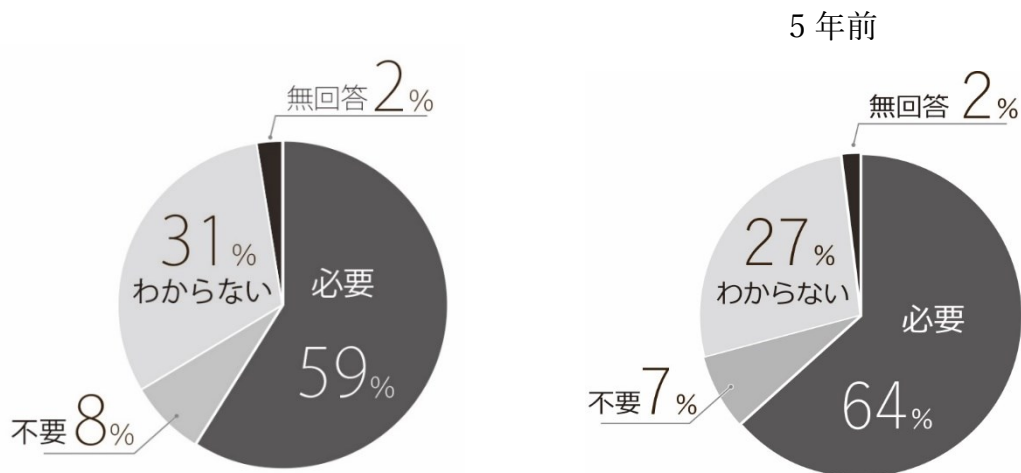
- 1、知っている 2、聞いたことはあるが内容はわからない
3、知らない



「知っている」と回答した方が5年前（40%）に比べ4%増えた。
若干、認知度が上がったか。

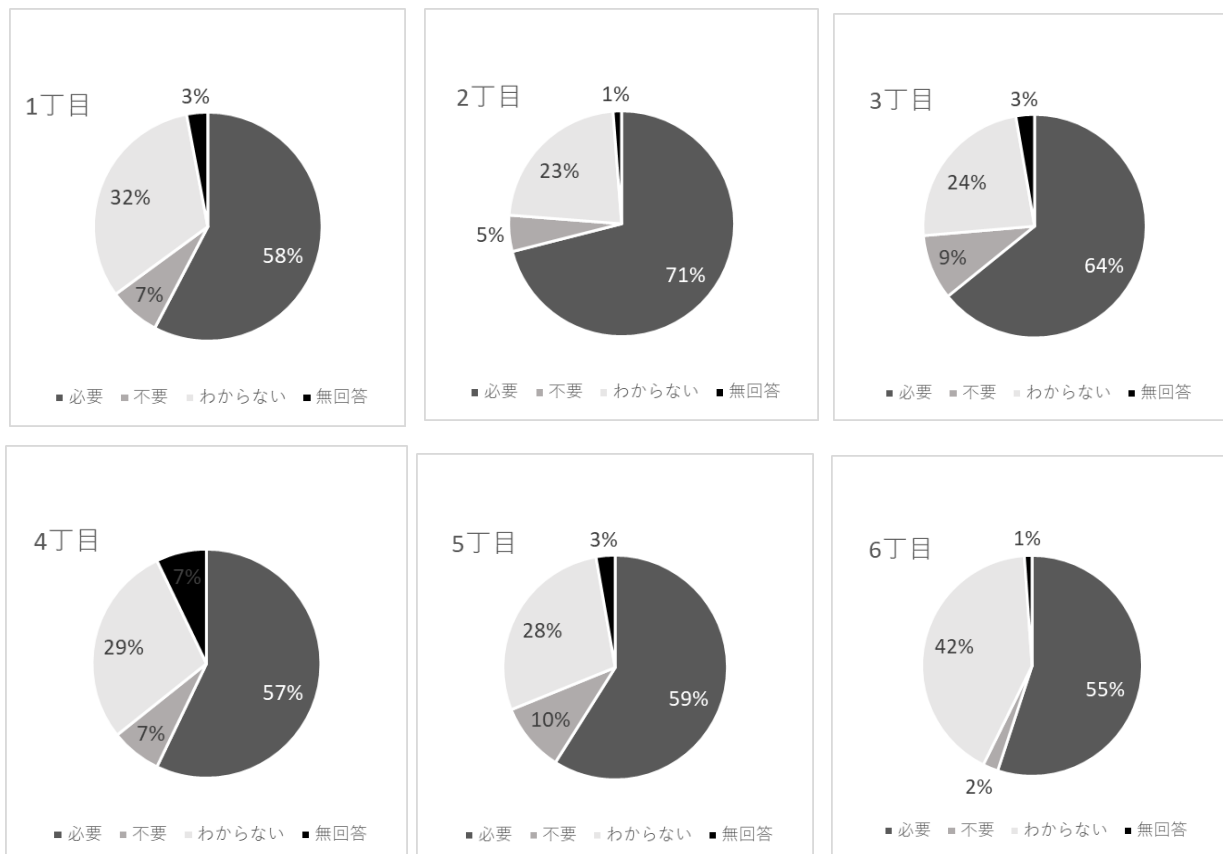
設問 31 自治会などの住民自治組織は必要だと思いますか？

- 1、必要 2、不要 3、わからない



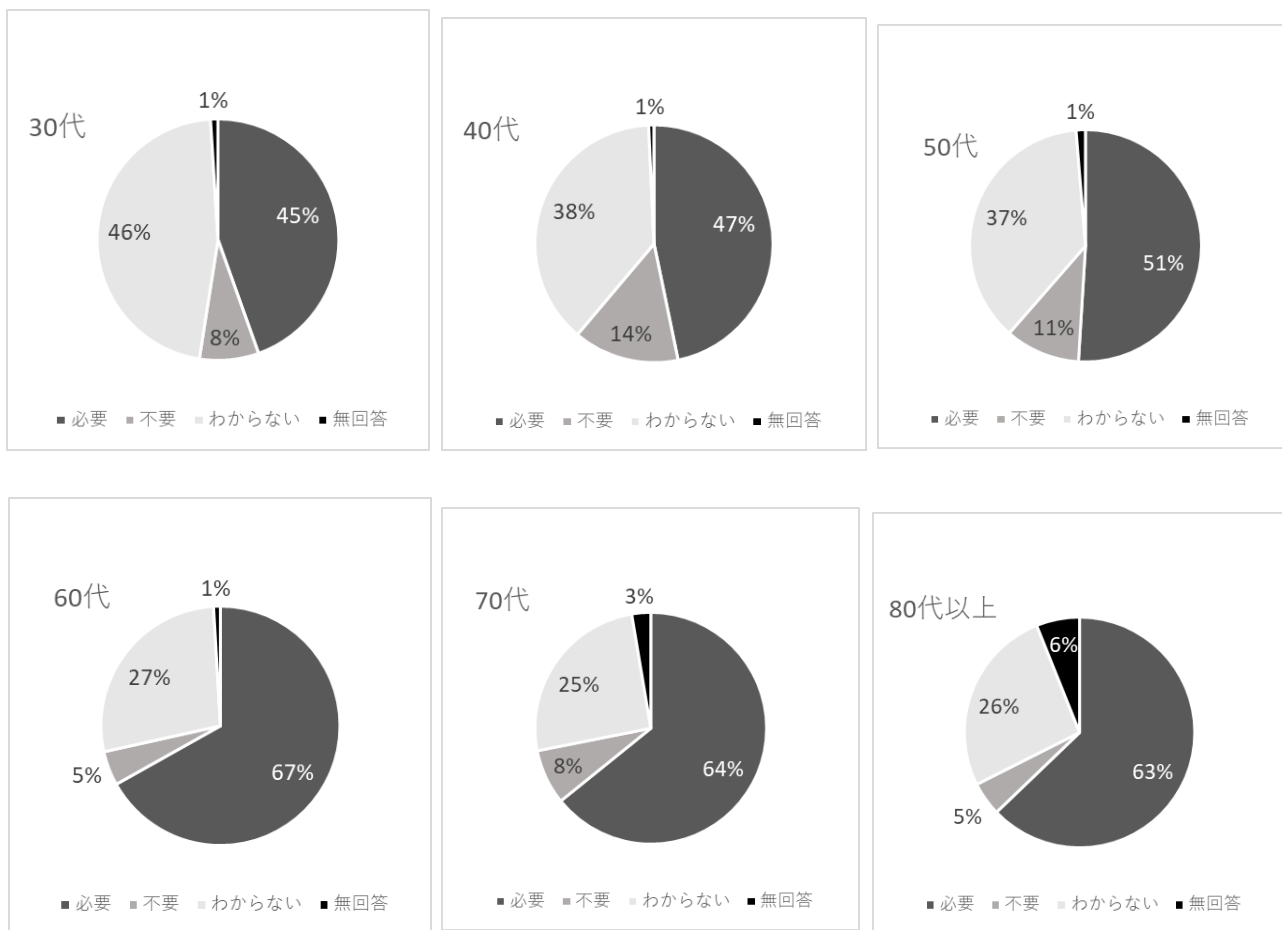
「必要」と答えた方が5年前に比べ5%減って、「わからない」と答えた方が4%増えた。

設問 31 に対する丁目による違い



「必要」と答えた方が多かったのは、2丁目、3丁目だった。一方6丁目（マンション）は55%で、他の丁目と同じぐらいだったが、「わからない」と答えた方が42%となり、他の丁目より多かった。6丁目（マンション）の方にとって、自治会の果たす役割がはっきりとは理解できない、漠然としている、という傾向にあるのではないか。

設問 31 に対する年代による違い



50 代以下と 60 代以上とで、はっきり意識が分かれた。10 年後、自治会は「必要」と考える人口が大幅に減少するかもしれない。

設問 32 よろしければ、 31 でその回答を選んだ理由をご記入ください

設問 31 で「必要」と答えた方（回答数 388）

- ・高齢化が進んでいて大変ですが地域を守るという意味で必要 簡素化出来るところはしていったほうがいい
- ・なければ環境が悪化、精神面もぎすぎすすると思う
- ・地域のつながりが、安心安全なまちづくりに繋がると思うから
- ・地域の困りごとの相談先が無いと困る。役所は個人の相談には対処しづらいと思うが、自治会まとめたの要望なら話を聞いてくれると思うから
- ・住民が話し合うべき課題もあるから
- ・無関心にならない為に必要だが、個人の負担の軽減が必要
- ・無秩序な居住地になって来る
- ・年 2 回行われる一斉清掃だけでも大切だと思う
- ・地域生活の秩序が保たれる
- ・高齢化が進み、自治会運営も難しいですが、自治会があることでつながれる事もあり、孤独になりがちな高齢者も住みやすい街になるのではないかと思います。自治会役員の仕事を必要最低限にして、持続可能な自治会になればと思います
- ・何事にも自助共助公助での取り組む時代、国は共助に依存しようとしている中大切ですね、民生委員さんなどの活動も名ばかりで寂しいし
- ・色々なことを周知したり、共通理解を図るためには必要だと思うが、仕事内容の精選は必要かと思います
- ・地域活動は全ての基盤
- ・地域の問題等の情報を共有したいから
- ・地域の中で顔見知りや声をかけられる人がいるのといないのとでは全然住み心地が違うと思います
- ・継続は大変だが、大きな組織を動かすためには、その下に小さな組織が必要になってくると思う
- ・回覧板等で地域のことがわかる
- ・市役所などへの橋渡し役
- ・最低限のルールは必要
- ・全てボランティアに頼らず、本当に必要な活動は、有償にするなど割りきった対応も必要だと思います
- ・無関心に拍車がかかる
- ・行政では手の届かない住民共通の必須役務がある(ゴミ ST 管理など)。他人事ではない。全員の役務である
- ・地域住民の参加、協力が必要なことが多いと思う
- ・役所とのパイプ役が必要だから

- ・地域での決まりごとに決定権のある組織は必要だと思うから
- ・必要とは思いますが、自治会が無くなった地域が問題なく社会生活や日常生活を送っているなら、最小限の組織でもよいのではないかと思っている
- ・一度も不快なことはなかった
- ・自治会に入ってくれない人にも自治会員の活動で済みやすい安全な街になっていることを知ってほしい
- ・必要だと思うが、全員が参画しやすいよう内容は見直すべきと思う
- ・住民高齢化のため、役割が無づかしいので、役員を募って報酬を会費から支払う。現会費が安すぎる
- ・災害時などにも何らかの発信源になるのでは？助け合いにもなるのでは？
- ・竹の台地域委員会はニュータウン内でも一番よく活躍していて素晴らしいと日頃から感謝している。多くの問題は市や県、区役所等の自治体からくる問題だと思う（感謝！）
- ・近所付き合いが希薄な現在、せめて自治会の防犯、環境などの活動は必要と考える
- ・私の地域では民生委員の顔が見えません。どうなっているのでしょうか？ 他市では民生委員は住民と市役所を結ぶ役割を果たしているそうです。高齢化が進むニュータウンではその役割は大きいと思うのですが・・・民生委員がしてくれないので、自治会でしてもらいたい
- ・住み始めて10年以内なので自治会と地域委員会がどう違うものなのかよくわかりません。「周りとは深入りしない付き合い」という雰囲気がある地域のように感じるので必要だと思います。学校にPTAがないことも意外でした。どこにでもあると思っていましたので。

設問 31 で「不要」と答えた方（回答数 54）

- ・役員の負担が大きいし、回覧板も在宅していないといけないので辞めてほしい。
- ・一部の人しか参加しないので意味がない。そこでも毎回集まって前向きな話し合いがなされるわけでもないので、時間と労力の無駄に感じる。ホープタウンの会費が高いことについても検討いただきたい。
- ・顔見知りも少ないので自治会は苦痛
- ・10年後には高齢化により運営出来なくなるから
- ・会費や清掃などが煩わしい
- ・高齢化で出るのが難しくなっている

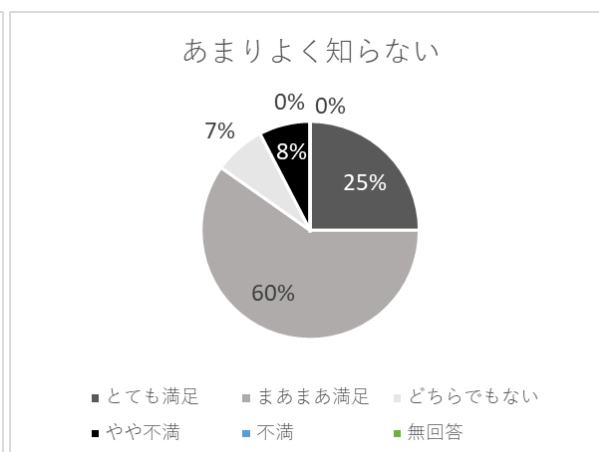
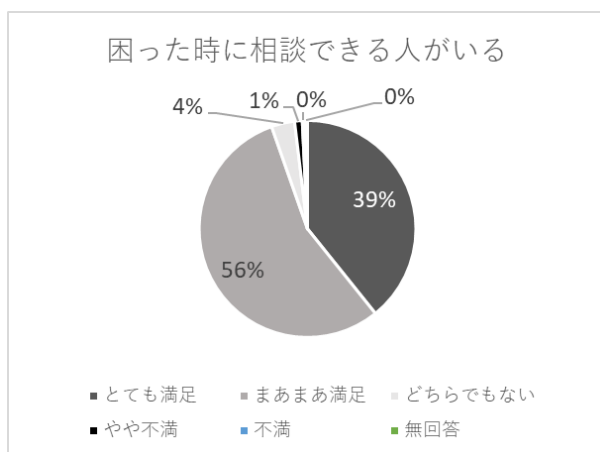
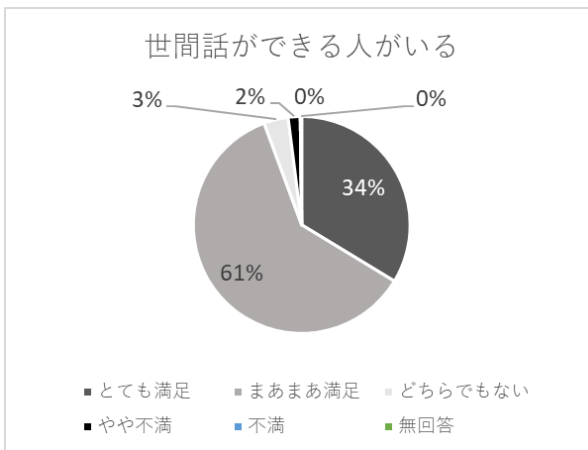
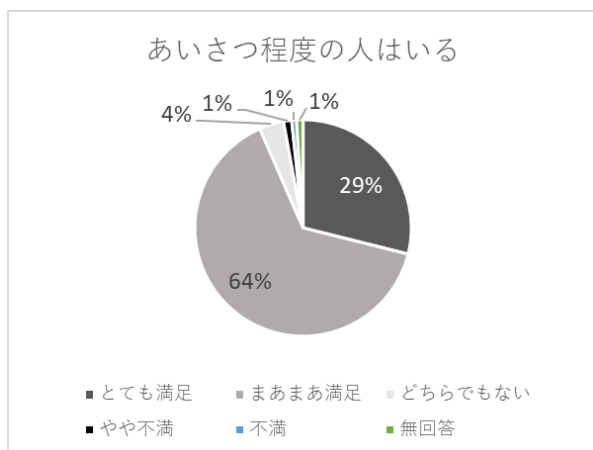
設問 31 で「わからない」と答えた方（回答数 75）

- ・地域の高齢者が増加傾向する中、組織を維持する事が難しいと思う
- ・高齢化したので、ゴミ当番だけで良い

- ・高齢化が進むと若い世代に負担が増えそう
- ・自治会の必要性をあまり感じない。住人も高齢になり、行事などの参加が厳しい
- ・マンションなので、自治会がどう言う形になるかイメージ出来ない。以前一戸建ての時は必要と感じた
- ・自治会活動は住民の自主活動なので、厳しい自治組織は不要ではないかと思う。もっと自由な活動を期待する
- ・防犯のためには必要なのかも
- ・ゴミ関連にだけ自治組織(?)が必要かなと思っています
- ・必要な時もあれば、時代にあっていないこともあり難しい

(10) その他

設問5住んでみてどうでしたか?と設問8ご近所であいさつや世間話、困りごとの相談ができる人がいますか?との関係を調べてみた



「困った時に相談できる人がいる」と回答した方は、住んでみてどうでしたかという設問5に「とても満足」と回答した方が39%だった。

「あまりよく知らない」と回答した方は、「とても満足」は25%となった。5年前のアンケートでも同じ結果が出ており、近隣関係と住み心地は相関関係があるといえるのではないかな。

まとめ

アンケート回収数 1274 で、実施時期（2023 年 6 月）の竹の台地域の 18 歳以上人口は 7267 人で 17.5%の回答率だった。回収方法としてネット回答もできるようにしたところ、若い方と高齢者の回答割合に大きな差はなかった。（5p 参照）さらに、6 丁目（マンション）の回答数が他の丁目よりかなり少なかった。（7p 参照）

竹の台に住んでみて

「竹の台」に住むこと選んだ理由や暮らしについて問う設問 4～設問 9

「竹の台」に住むことを選んだ理由について、丁目によりばらつきがあった。駅に近いところに住む方は、「交通の便がよい」「買い物などが便利」を選んでいるが、駅から少し離れているところに住む方は、「まちなみが良い」を選んでいる。また、5 年前に比べ、「実家が近い」を選んだ方の増加率が増えた。

住み心地についても、ほとんどの方が「とても満足」「まあまあ満足」と答えている。

近隣関係を問う設問 8 では、6 丁目（マンション）と戸建てに住む方で違いが大きかった。（15p 参照）6 丁目（マンション）での近隣関係の希薄さが目立つ結果となった。

買い物については、「スーパー万代」が増え、「トーホー竹の台店」が大きく減った。トーホー竹の台店が閉店することになったが、利用する方の丁目と年齢を調べると、周辺の 2 丁目～4 丁目の高齢者が多かった。高齢化が進むニュータウンでは、各小学校区に設置されている近隣センターの果たす役割が大きいと思われる。（18p 参照）

子育て・高齢者・障がい者について

子育てと高齢者や障がい者について問う設問 10～設問 14

5 年前とほとんど変わらない結果だった。子育てについては、6 割以上の方が子育てしやすいと答えており、記述の回答から、平成 17 年から続く登下校の見守り活動が大きな役割を果たしていることが分かった。また、雨のとき遊べる施設や、急な子どもの病気に対応できる施設に要望があった。

高齢者や障がい者については、4 割の方が「わからない」と答えていた。

安全・防災

竹の台の防災や防犯について問う設問 15～設問 18

7 割近くの方が安全だと思っている。また、年に 1 回実施される一斉避難訓練や安否確認訓練に参加したことがあると答えた方が 5 年前に比べ 2 倍になった。一方、6 丁目（マンション）では、他丁目に比べ突出して参加が少なく、5 年前と同じ参加率となった。（24p 参照）さらに、安否確認をしてくれる人も「いない」と答えた方が 4 割弱だった。（25p 参照）

地域の活動・拠点・つながり

地域活動の拠点施設や住民同士のつながりを問う設問 19～設問 29

地域活動の拠点施設である竹の台地域福祉センターやたけのパークを知っている方が 8 割以上だった。ここでも、6 丁目（マンション）では、6 割にとどまり、突出して少なかった。

竹の台の広報紙である竹の台総合新聞を「いつも読んでいる」と回答した方が、5 年前に比べ 10%減った。内容を精査する必要があるのか、または、地域の情報に興味が無くなった方が増えたのか。

地域でボランティアとして参加してみたい活動があるかという問いには、8 割以上の方が、「ない」と答えた。（34p 参照）ボランティアで活動する地域の活動で、こんな活動が欲しいと望んでも、それを供給する側の住民がいないということになる。地域委員会の活動内容も優先順位を決め、精査する必要があると思われる。

ふれあいまつりの日を小学校の登校日に設定したことに対し、多くの方に賛同していただいた。（37p 参照）

住民自治組織について

住民自治組織である竹の台地域委員会を「知っている」「聞いたことはあるが内容は知らない」を併せると 82%になった。今後、住民みんなが住みよいまちを作っていくためには、内容まで知っていただく努力をする必要があると思われる。

みんなが住みよいまちの元になるのは、自治会・管理組合である。6 割の方が「必要」と考えており、その理由として、多くの方が、住環境の維持、防犯、災害時の助け合い、また、行政への橋渡し役を挙げていた。高齢化に伴い、自治会運営が困難になってきており、活動内容を見直すべきとの意見もあった。